

# 平成 20 年 牧之原市市民意識調査

## 報 告 書

平成 20 年 11 月

牧之原市



\* \* \* 目 次 \* \* \*

1	調査の概要	1
	（1）調査の目的	1
	（2）調査項目	1
	（3）調査の設計	1
	（4）回収状況	1
2	調査結果	2
	＜牧之原市に居住することについてお聞きします＞	2
	＜牧之原市のまちづくりの基本姿勢についてお聞きします＞	10
	＜牧之原市の重点的な課題についてお聞きします＞	16
	＜市からの情報提供についてお聞きします＞	18
	＜市民の道徳性や思いやりについてお聞きします＞	24
	＜子どもの育てやすさについてお聞きします＞	26
	＜環境に配慮した暮らしについてお聞きします＞	28
	＜日常的な運動についてお聞きします＞	30
	＜行政の効率的な運営についてお聞きします＞	36
	＜合併してからのまちづくりについてお聞きします＞	42
	＜市の取り組みへの提案、意見、感じていること＞	46
	＜最後に＞	47



# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

この調査は、「第1次牧之原市総合計画」の「実施計画」(戦略プラン)に基づいた様々な取組みに対し、市民の生活環境やまちづくりの進め方についての評価・意見を把握し、今後の市政に反映させることを目的に実施する。

## (2) 調査項目

- ・ 牧之原市に居住することについて
- ・ 牧之原市の重点的な課題について
- ・ 市民の道徳性や思いやりについて
- ・ 環境に配慮した暮らしについて
- ・ 行政の効率的な運営について
- ・ 市の取組みへの提案や意見、そのほか、日ごろの生活の中で感じていること
- ・ 回答者の属性
- ・ 牧之原市のまちづくりの基本姿勢について
- ・ 市からの情報提供について
- ・ 子どもの育てやすさについて
- ・ 日常的な運動について
- ・ 合併してからのまちづくりについて

## (3) 調査の設計

- ・ 調査対象：牧之原市在住（市内に住民票をおく）の20歳以上の男女を無作為抽出
- ・ 調査方法：各戸へ訪問配布・回収
- ・ 調査期間：平成20年10月1日～平成20年10月14日

## (4) 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,300	1,172	90.2%

(回収数1202のうち無効票30)

\*\*\*\*\*

### 報告書を見る際の注意事項

※回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してある。

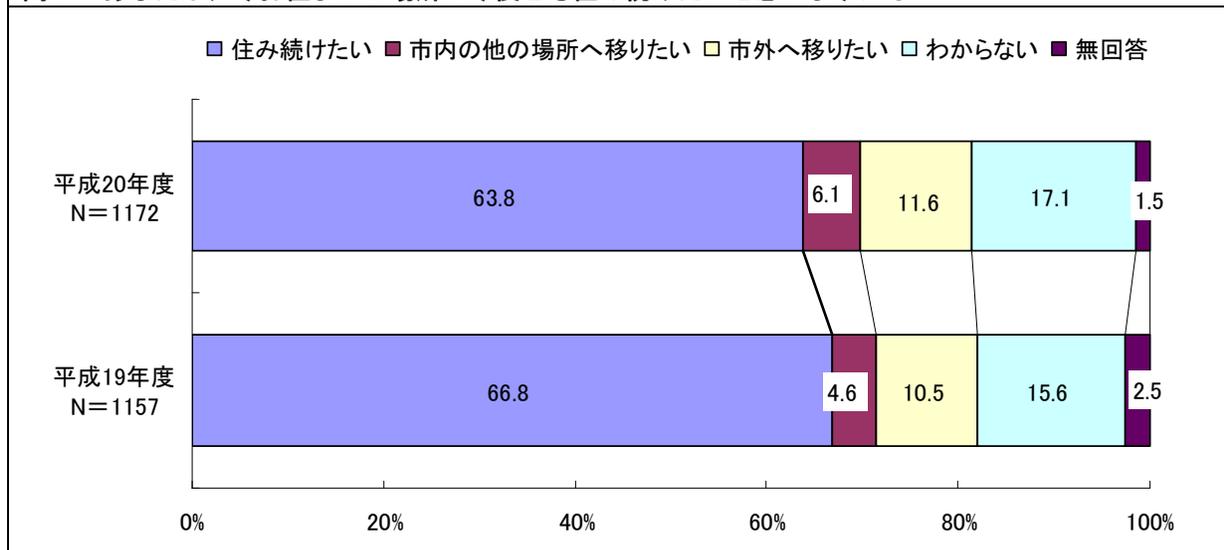
※百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

※1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

## 2 調査結果

<牧之原市に居住することについてお聞きします>

問1 あなたは、今お住まいの場所に今後とも住み続けたいと思いますか？

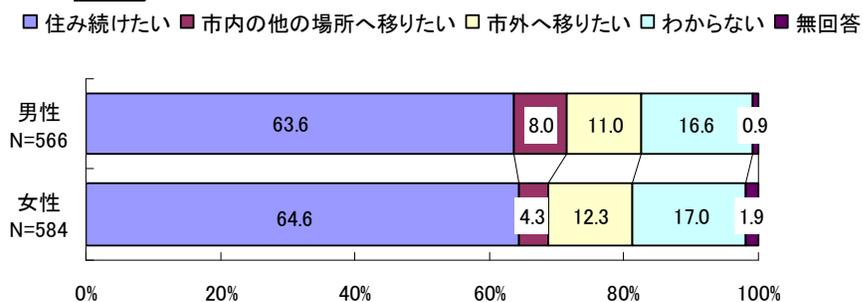


牧之原市に「住み続けたい」が63.8%と最も多いものの、昨年よりは3.0ポイント下がっている。一方、「市内の他の場所へ移りたい」「市外へ移りたい」「わからない」はいずれもややポイントが上がっており、居住地への執着心は薄らいでいる可能性がある。

### クロス集計

#### 性別

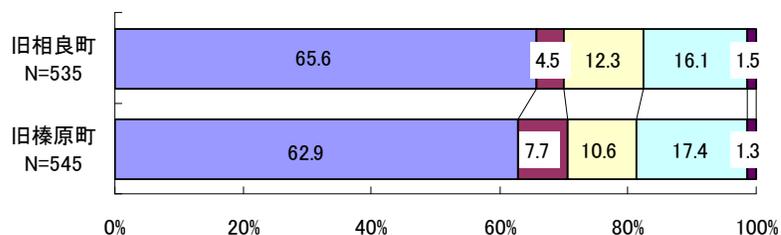
性別にみると、「市内の他の場所へ移りたい」は男性が8.0%で女性よりも3.7ポイント高くなっている。

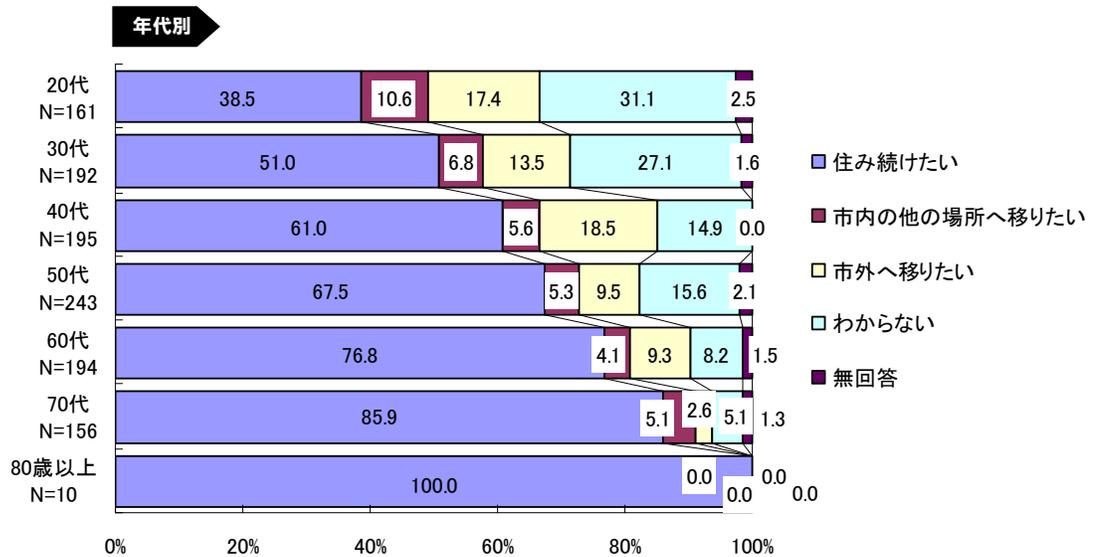


#### 居住地別

居住地別にみると、旧相良町の方が、旧榛原町よりも「住み続けたい」が2.7ポイント高くなっている。

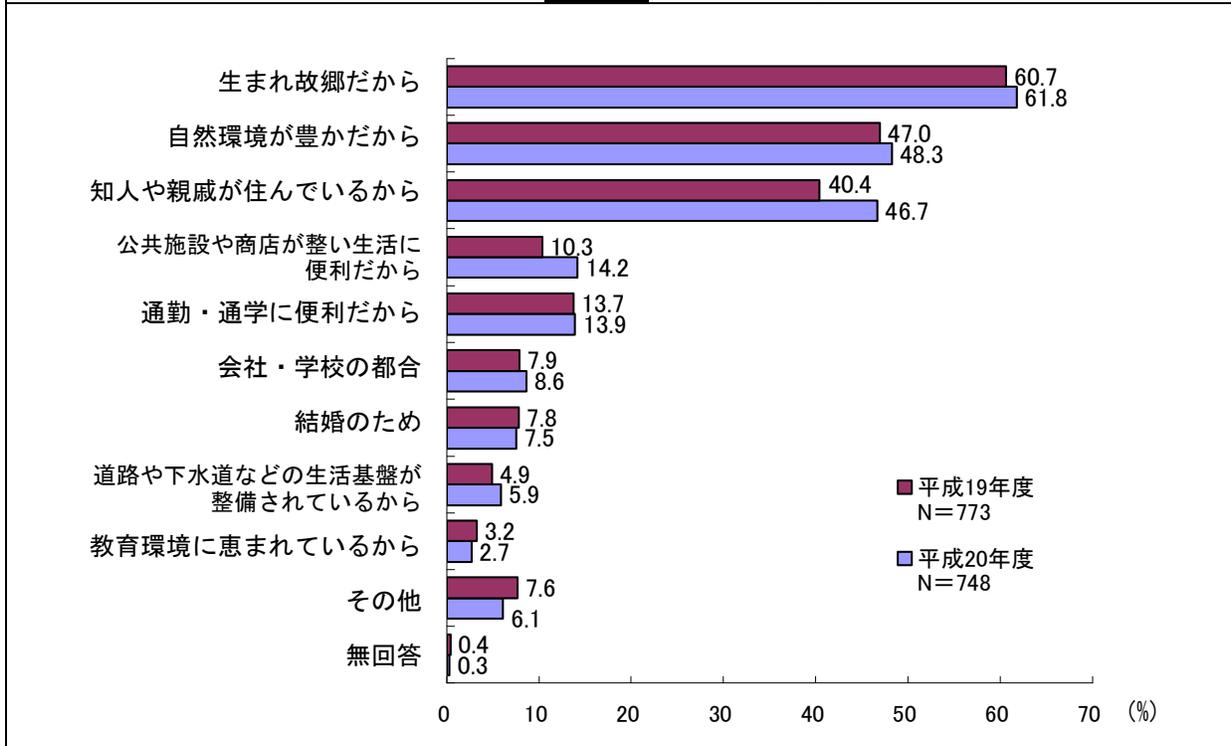
一方、旧榛原町は、旧相良町よりも「市内の他の場所へ移りたい」が3.2ポイント高くなっている。





年代別にみると、年代が上がるほど「住み続けたい」が高くなっている。  
 一方、若い年代では「わからない」という回答も多く、居住地に対するこだわりのなさがみ取れる。

問1-1 住み続けたい理由を、次の中から3つ以内で選んで○印をつけてください。



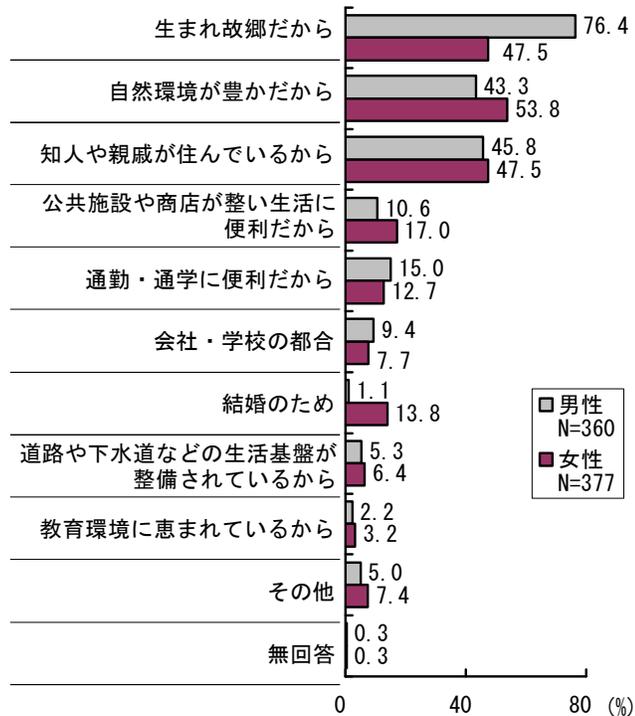
問1で牧之原市に「住み続けたい」と回答した748人の住み続けたい理由は、「生まれ故郷だから」が61.8%で最も多く、次いで「自然環境が豊かだから」「知人や親戚が住んでいるから」と昨年と同順になっているが、「知人や親戚が住んでいるから」は、昨年よりも6.3ポイント上がっている。

## クロス集計

性別にみると、男性は「生まれ故郷だから」が76.4%と圧倒的である。

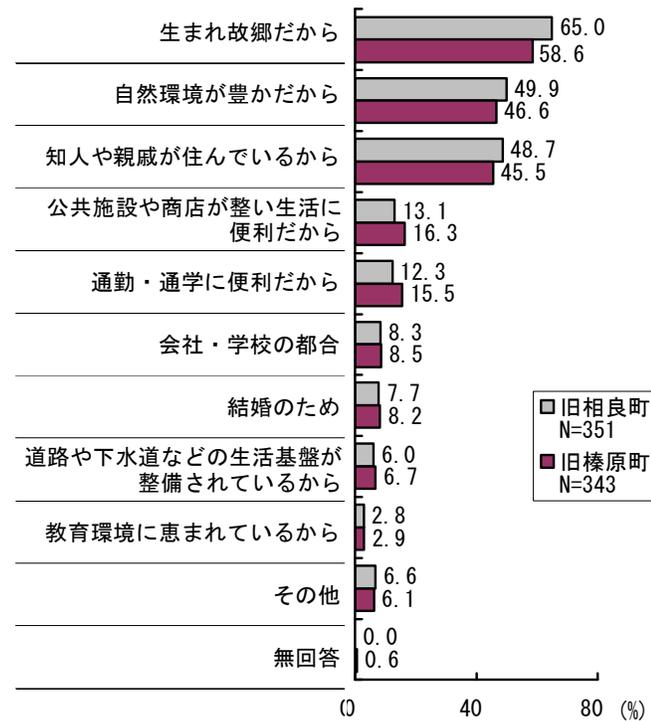
また、女性では「自然環境が豊かだから」が53.8%と過半数を超え、男性より10ポイント上回る回答となっている。

### 性別

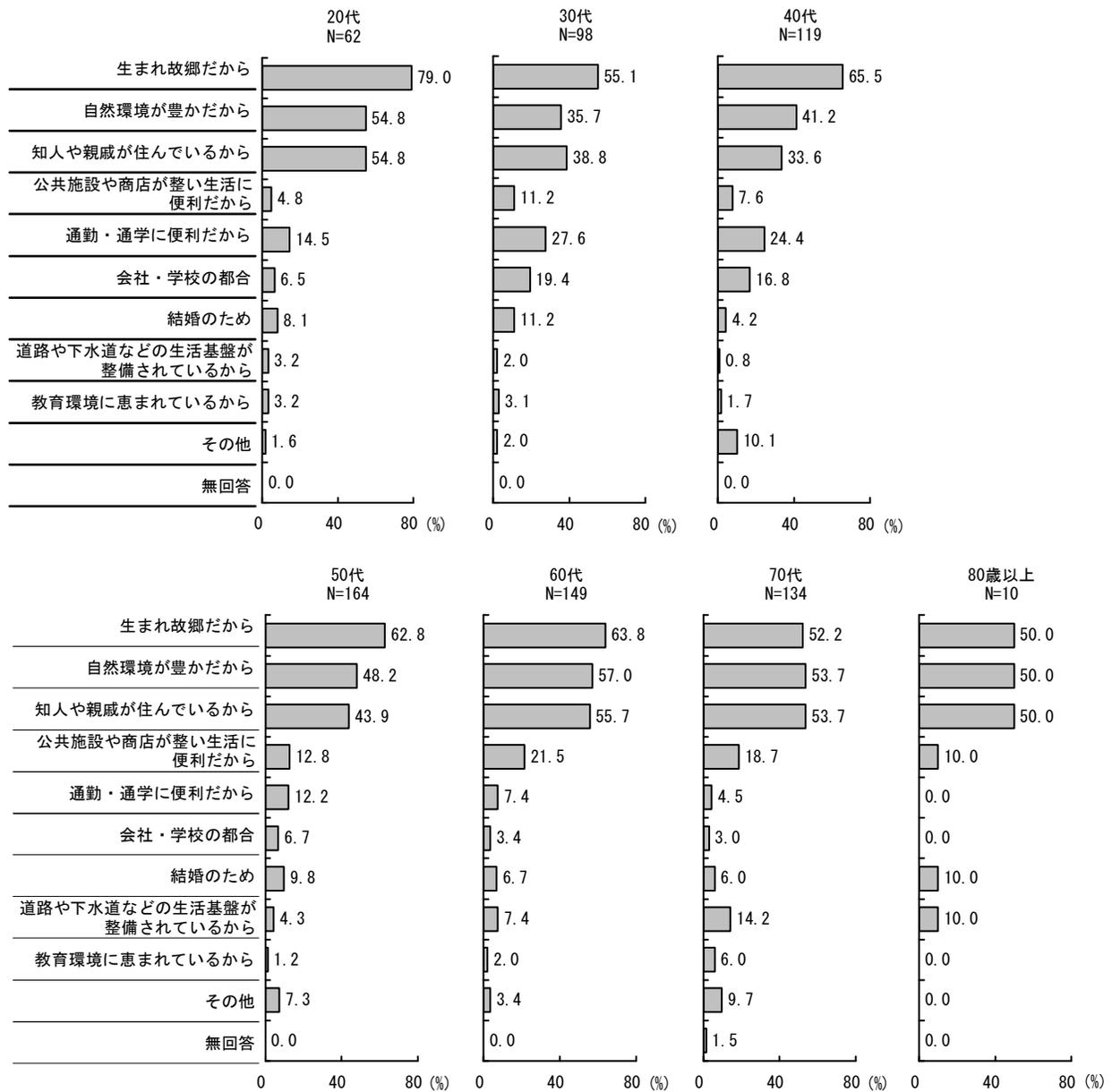


居住地別にみると、上位3つについては旧相良町の方が高いが、4位以降では旧榛原町の方が高くなっており、居住地によって住み続けたい理由にはやや違いがあることがわかる。

### 居住地別



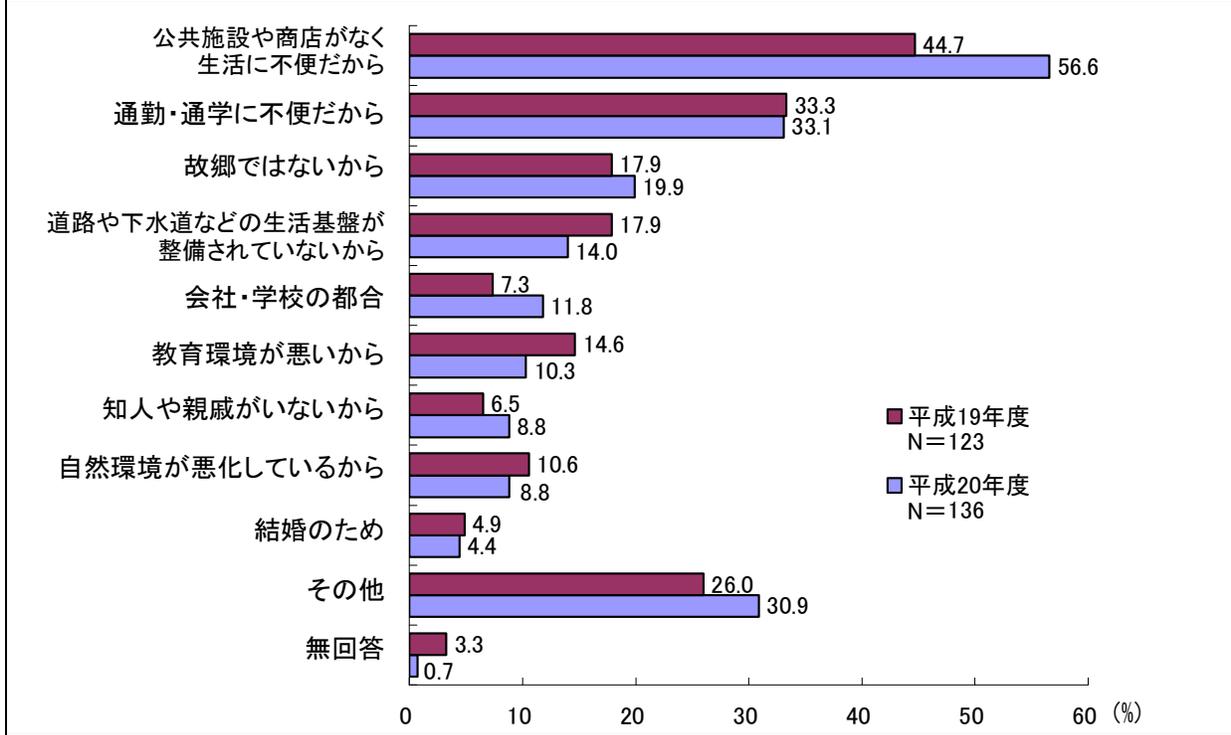
### 年代別



年代別にみると、「生まれ故郷だから」はすべての年代で50%を超えるが、特に20代では79.0%と高い割合になっている。

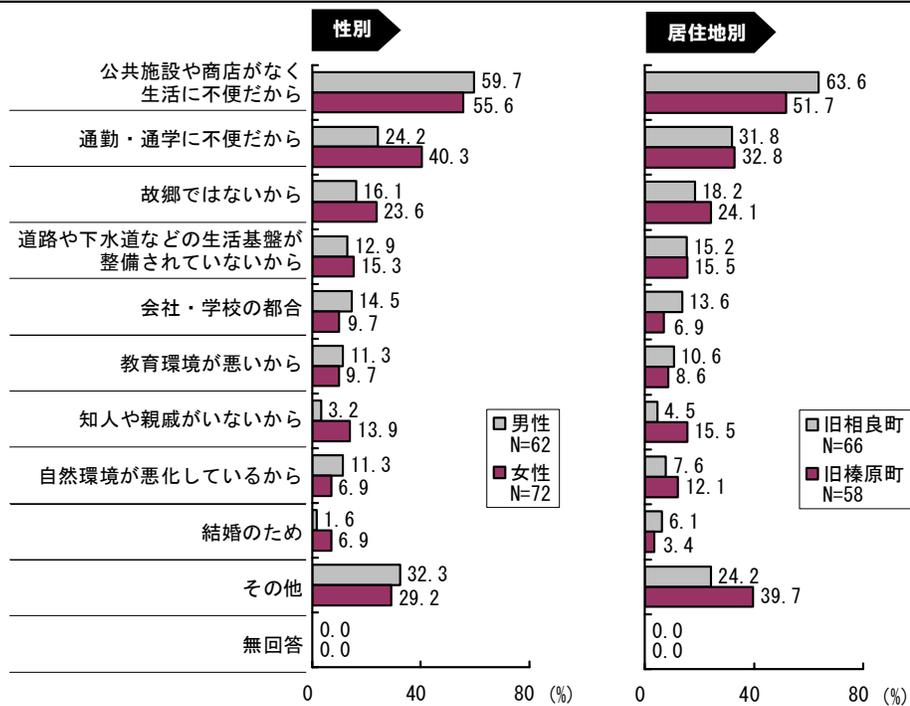
また、20～40代では、他の年代と比べて「通勤・通学に便利だから」が高くなっている。

問1-2 市外へ移りたい理由を、次の中から3つ以内で選んで○印をつけてください。



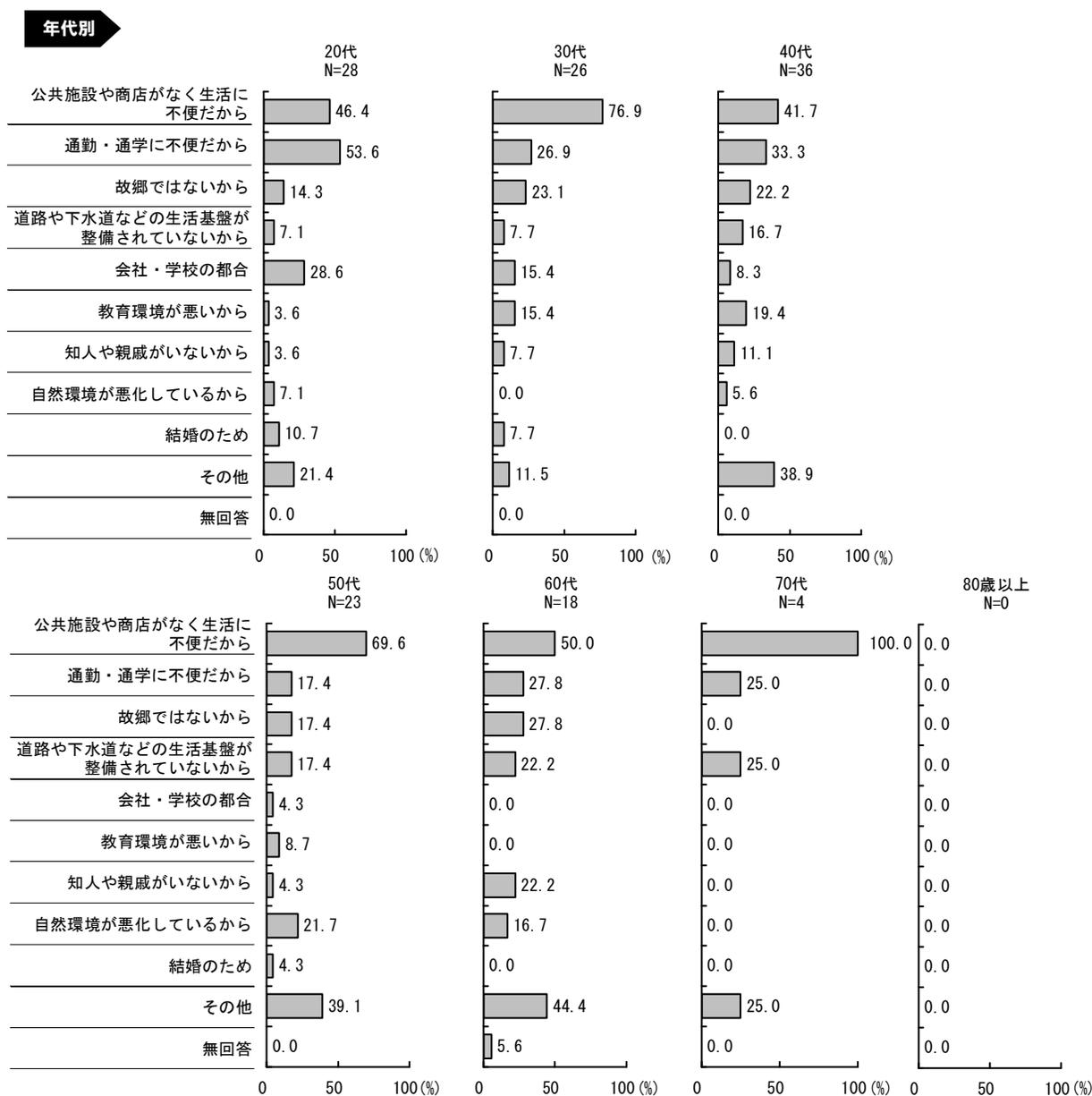
問1で「市外へ移りたい」と回答した136人の市外へ移りたい理由は、「公共施設や商店がなく生活に不便だから」が56.6%と最も多く、昨年よりも10ポイント以上高くなっている。次いで、「通勤・通学に不便だから」「故郷ではないから」と、昨年と同順になっている。

クロス集計



性別にみると、女性は「通勤・通学に不便だから」が男性に比べて15ポイント以上高くなっている。

また、居住地別にみると「公共施設や商店がなく生活に不便だから」は、特に旧相良町で高い割合となっており、問1-1の住み続けたい理由で、旧榛原町が利便性に偏重した理由に多く回答していたのと対を成す回答結果といえる。



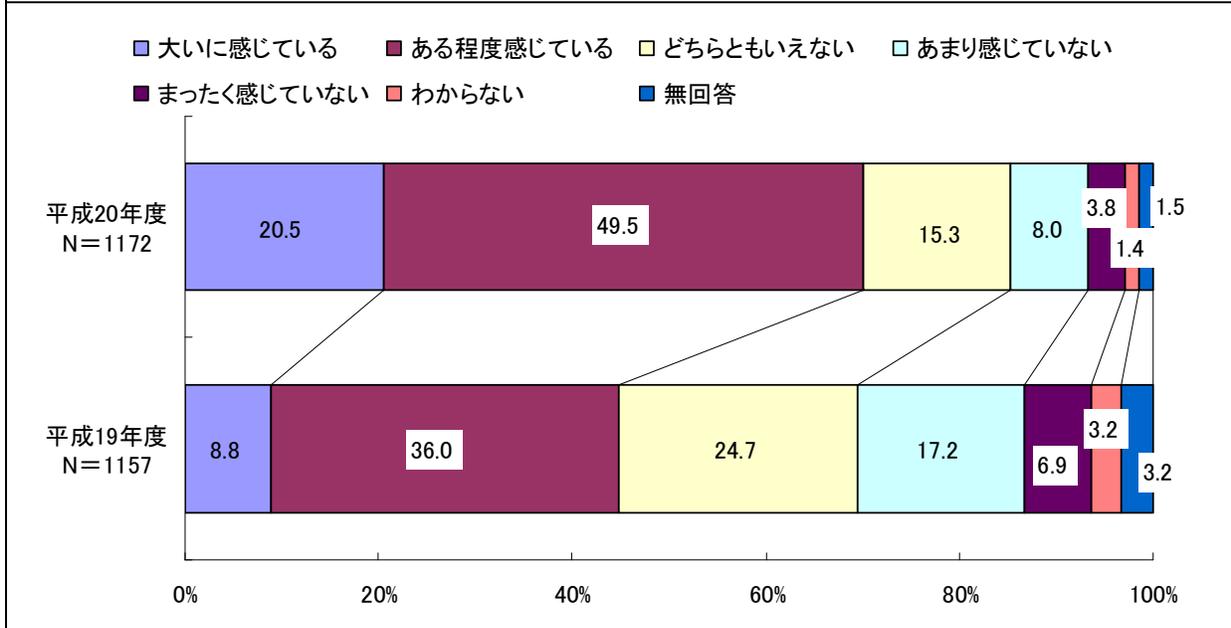
年代別にみると、「公共施設や商店がなく生活に不便だから」はいずれの年代でも多い回答だが、ポイントにはばらつきがある。

また、20代のみ「通勤・通学に不便だから」が最も多く53.6%となっている。

**ポイント**

これからも牧之原市に住み続けたい市民は63.8%  
最も多い理由は「生まれ故郷だから」

問2 あなたは、今住んでいる牧之原市に愛着を感じていますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。



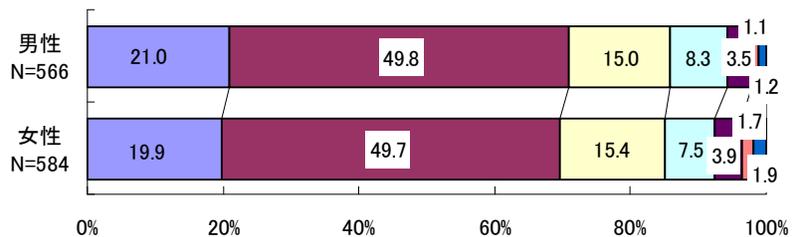
牧之原市に愛着を「大いに感じている」「ある程度感じている」は昨年より25.2ポイント上がり、合計70.0%と高い割合を占めている。

### クロス集計

#### 性別

性別にみると、性別による違いはほぼみられない。

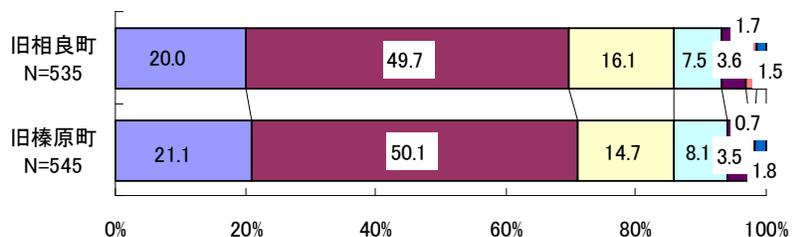
■ 大いに感じている ■ ある程度感じている □ どちらともいえない □ あまり感じていない  
■ まったく感じていない ■ わからない ■ 無回答

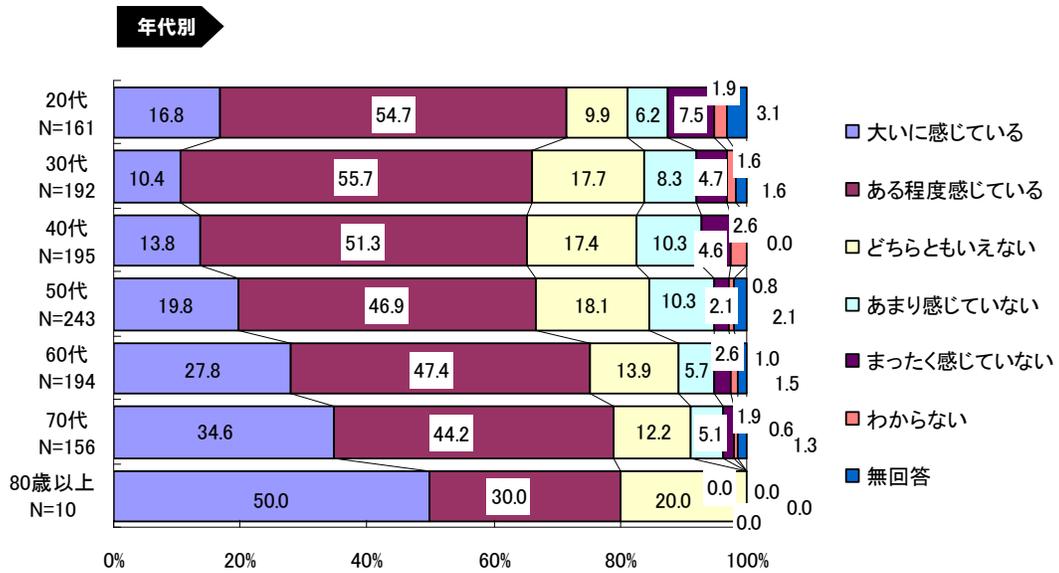


#### 居住地別

居住地別にみると、違いはないに等しく、居住地と市への愛着との関係性はないといえる。

■ 大いに感じている ■ ある程度感じている □ どちらともいえない □ あまり感じていない  
■ まったく感じていない ■ わからない ■ 無回答





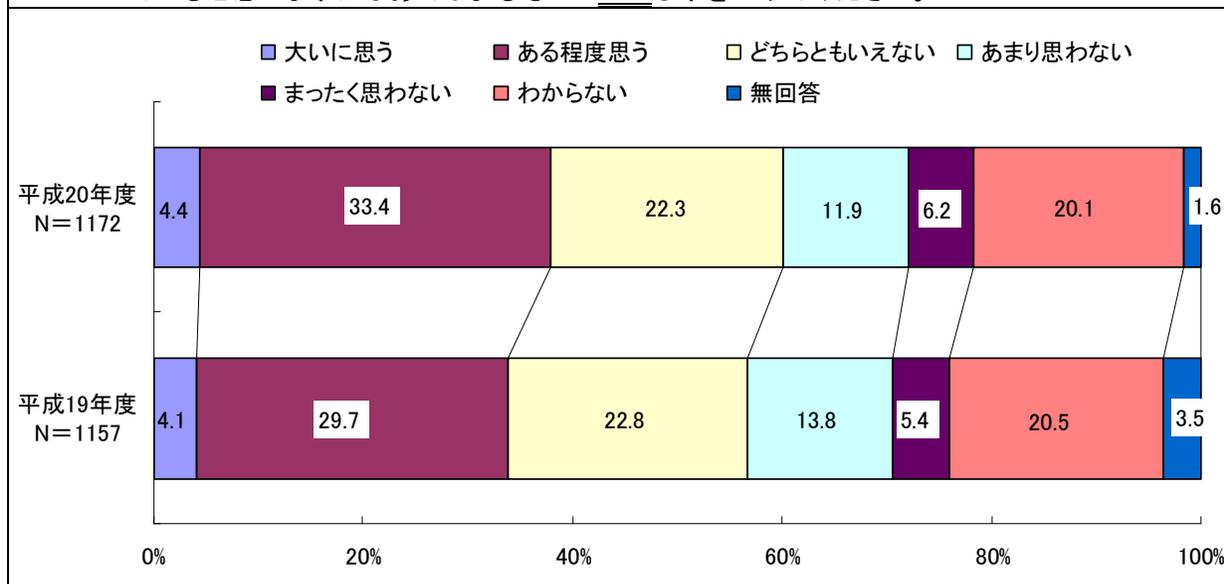
年代別にみると、「大いに感じている」は高年代で高い比率となっているが、一方「ある程度感じている」は若い年代で高く、両選択肢を合計した割合でみると年代による違いはほぼないが、30～50代では、愛着を感じる割合はやや低くなっている。

ポイント

市民の7割は、牧之原市に愛着を感じている。  
性別・居住地・年代による比率の変化は、ほぼない。

＜牧之原市のまちづくりの基本姿勢についてお聞きします＞

問3 「市民のための市役所」とは、市の職員が公平公正に市民のためにどうすればいいのか、市の判断基準として使っている言葉です。あなたは、市の職員が市民のために公平公正に仕事を進めていると思いますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。

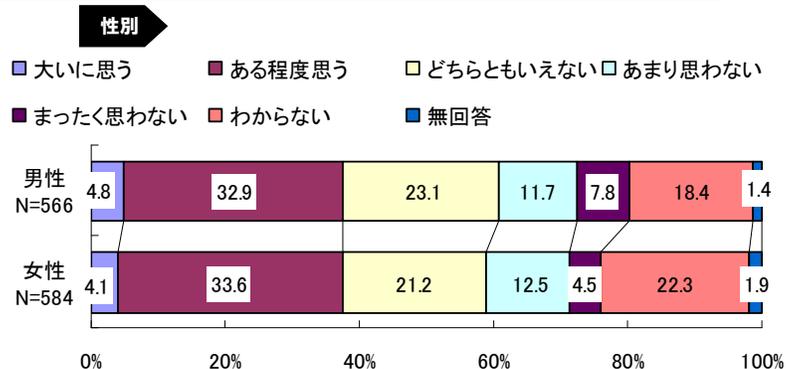


市職員が市民のために公平公正に仕事を進めていると「大いに思う」「ある程度思う」の合計が37.8%、「あまり思わない」「まったく思わない」の合計が18.1%となっており、好意的な意見は昨年よりも4.0ポイント上がっている。

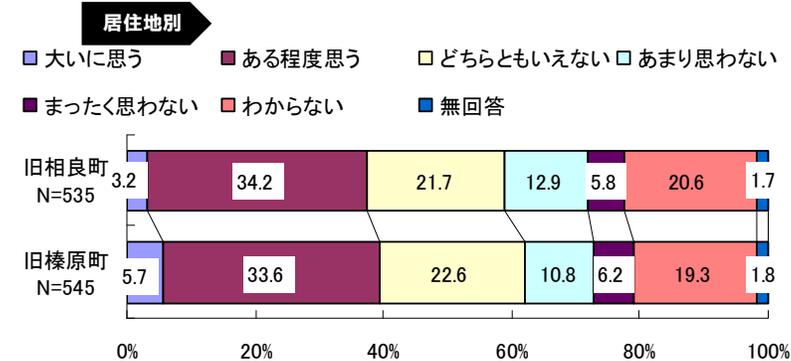
クロス集計

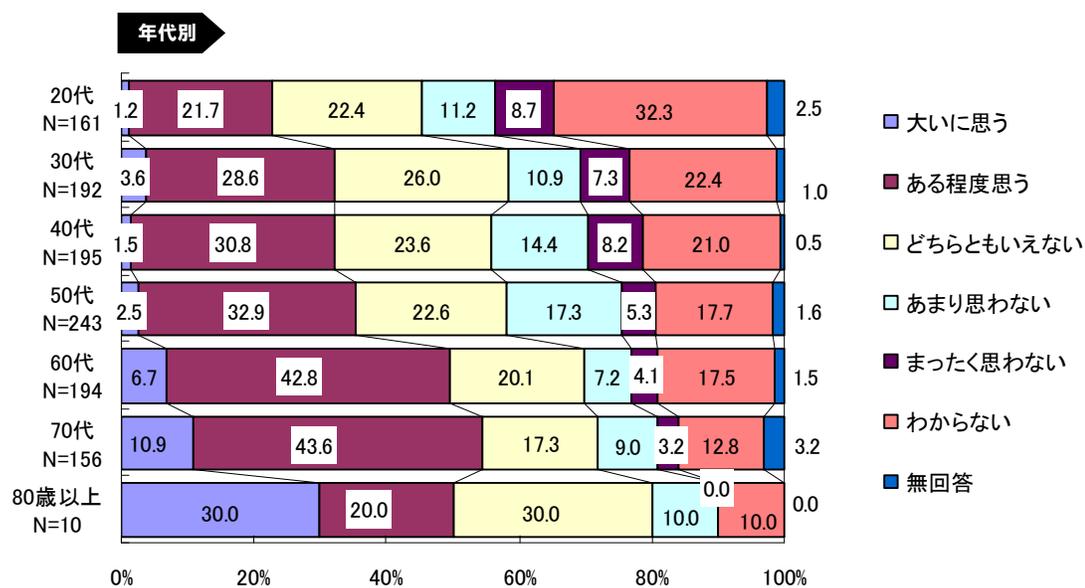
性別にみると、「まったく思わない」で男女差があり、男性の方が厳しい目で市職員の仕事をみているといえる。

一方、女性は「わからない」が22.3%と男性よりも3.9ポイント高く、質問内容にそもそも関心が薄い可能性がある。



居住地別にみると、旧相良町の方が「大いに思う」「ある程度思う」が旧榛原町よりも低く、代わりに「あまり思わない」「まったく思わない」が高くなっている。





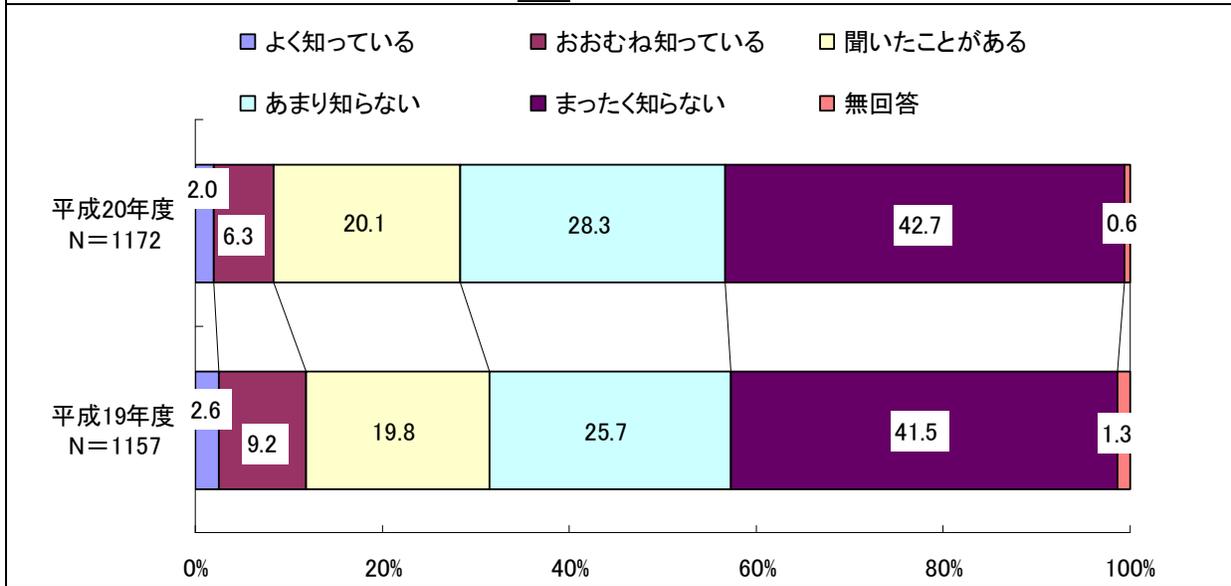
年代別にみると、高齢者（60代以上）は評価が甘く、若い年代では辛らつになるという結果があらわれている。

また、「わからない」は若い年代ほど高くなり、市政運営に対する無関心がみて取れる。

ポイント

市職員が市民のために公平公正に仕事を進めていると思う市民は37.8%  
若年代では厳しい評価。

問4 「フォーラムまきのはら」とは、様々な地域課題（生活課題）を利害関係者が集まって市民が主体となって解決していくものです。あなたは、「フォーラムまきのはら」という考え方を知っていましたか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。

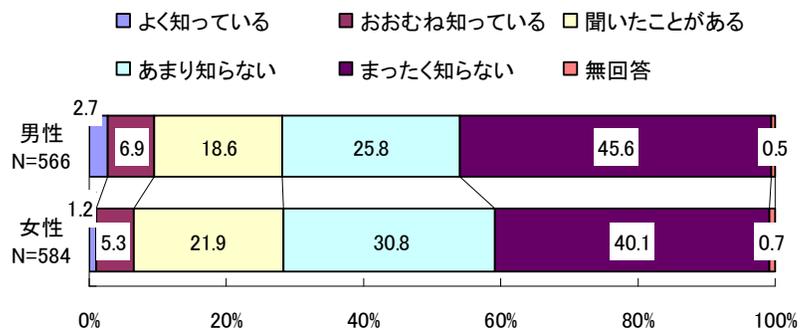


「フォーラムまきのはら」について、「よく知っている」「おおむね知っている」の合計が8.3%、「あまり知らない」「まったく知らない」の合計が71.0%となっており、認知率は昨年よりもさらに3.5ポイント下がっている。

### クロス集計

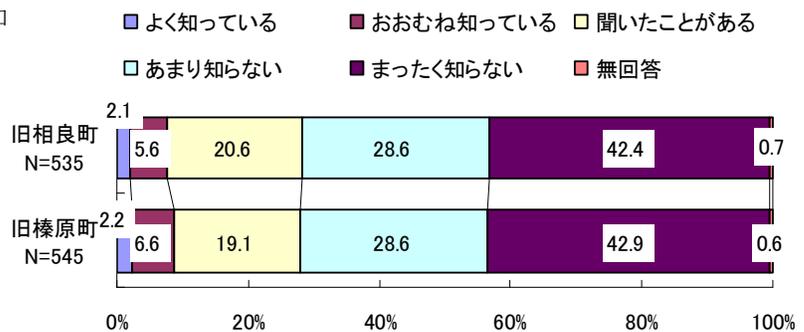
性別にみると、男性は「まったく知らない」が45.6%と半数近くに及び、女性よりも非認知率が5%以上高くなっている。

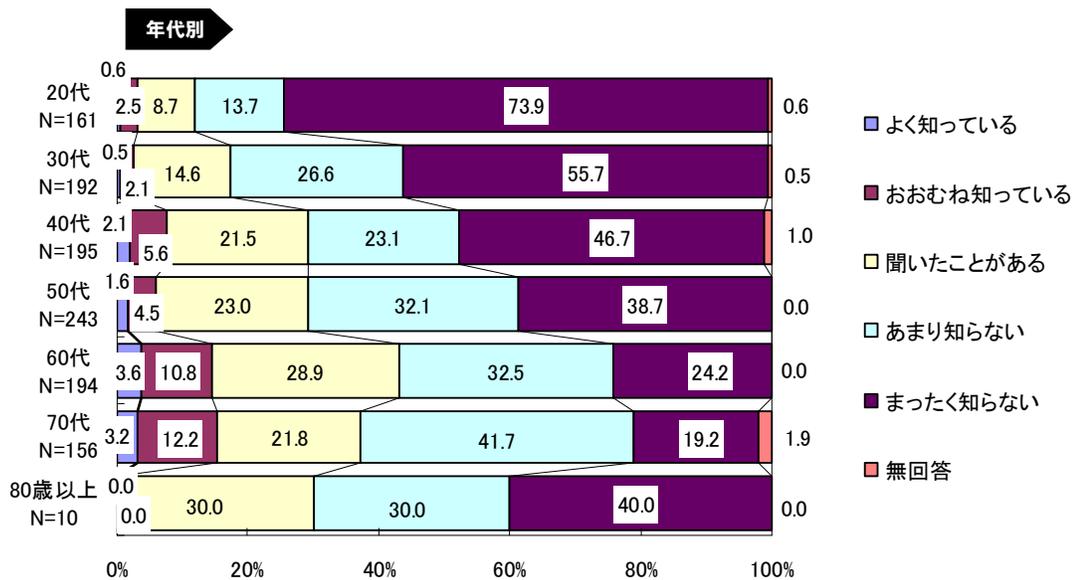
#### 性別



居住地別にみると、居住地による認知率の違いはないといえる。

#### 居住地別



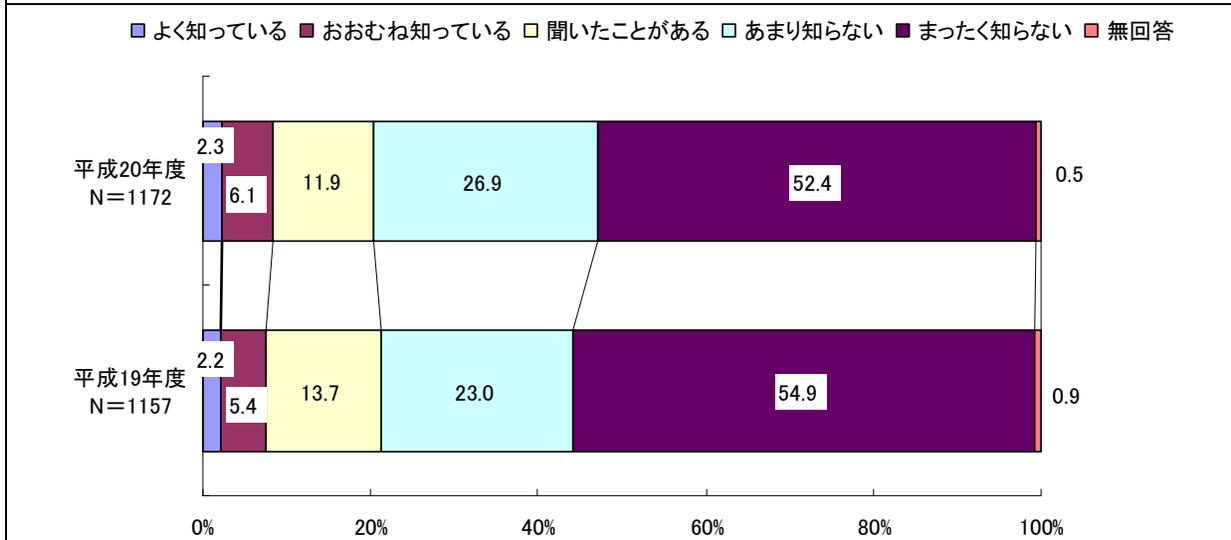


年代別にみると、60・70代だけ他の年代に比べて認知率が高く15%前後になっているが、他の年代では10%を下回る低い割合となっている。

**ポイント**

市民の7割が、「フォーラムまきのはら」を知らない。  
高年代では、やや認知率が上がる。

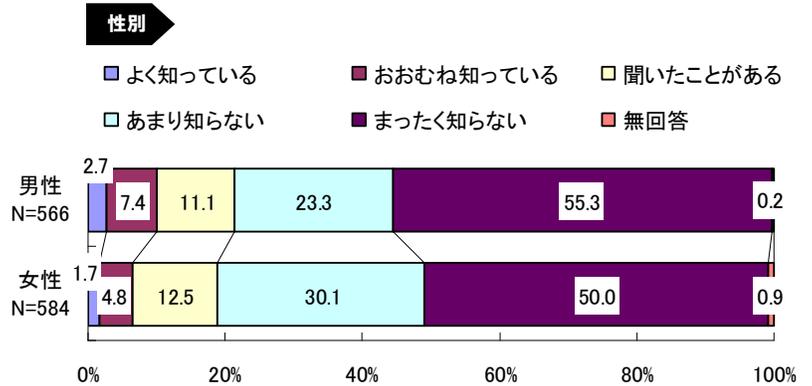
問5 「報徳」とは、二宮尊徳の唱えた「勤勉・分度・推譲」です。この大切な教えを牧之原市のまちづくりの柱の一つにしていることを知っていましたか？あてはまるものに1つ〇印をつけてください。



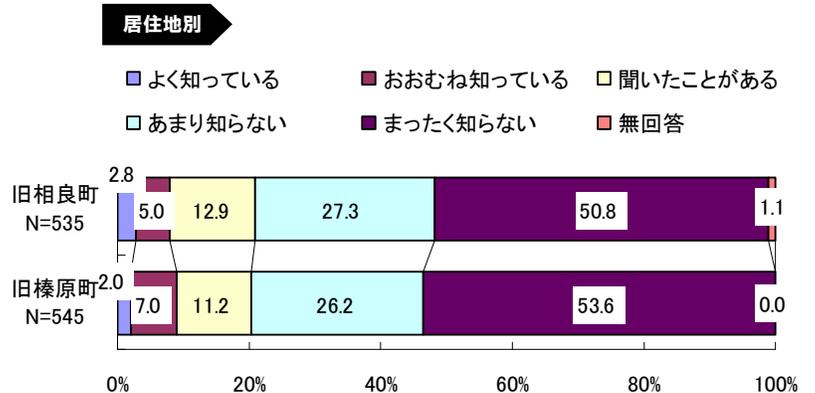
「報徳」がまちづくりの柱の一つであることを「よく知っている」「おおむね知っている」の合計が8.4%、「あまり知らない」「まったく知らない」の合計が79.3%となっており、昨年より認知率はやや上がっている。

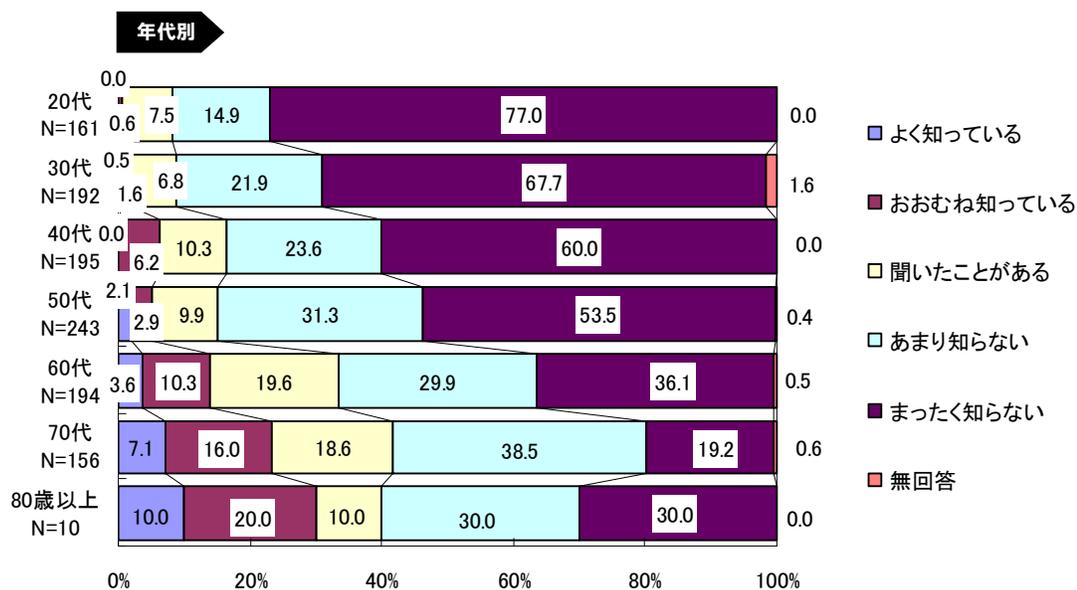
### クロス集計

性別にみると、男性の方が女性よりも認知率は高いが、一方で「まったく知らない」も女性より高いため、性別に関わらず個人差があるといえる。



居住地別にみると、居住地による認知率の違いはほぼないといえる。





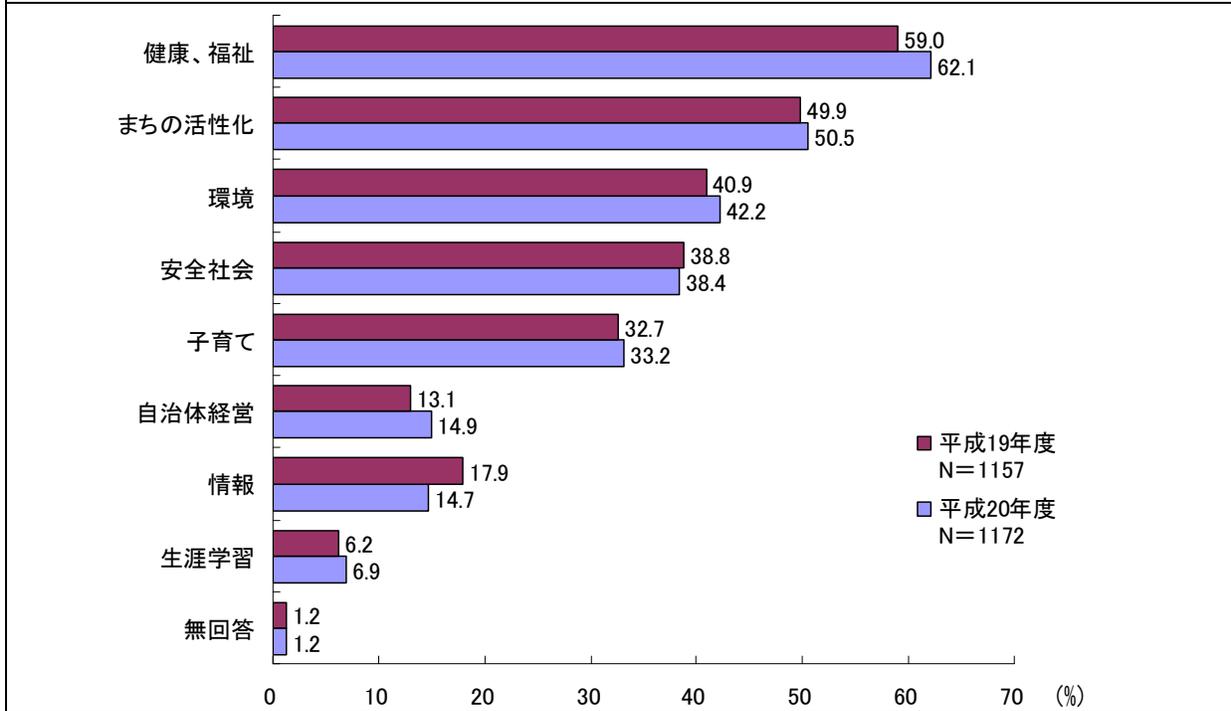
年代別にみると、年代が上がるほど認知率は高くなっている。  
 20代では“知っている”は1%に満たない。

**ポイント**

約8割の市民は、「報徳」がまちづくりの柱の一つであることを知らない。  
 特に20代の認知率は1%に満たない。

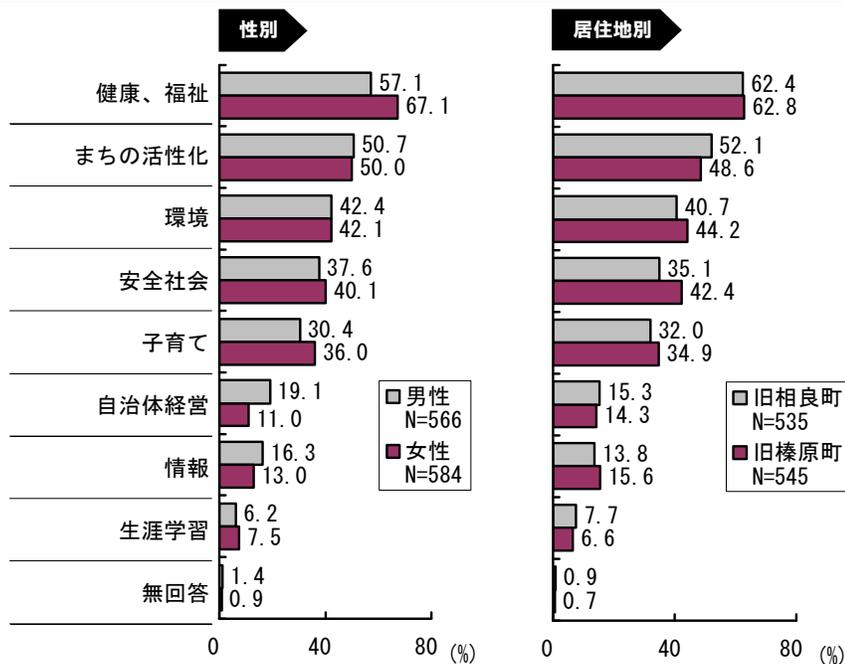
<牧之原市の重点的な課題についてお聞きします>

問6 牧之原市では、重点的な課題として、次の8つを選び、取組みを進めています。あなたは、この8つの中でどれを特に重視すべきだと考えますか？あてはまるものに3つ以内で○印をつけてください。



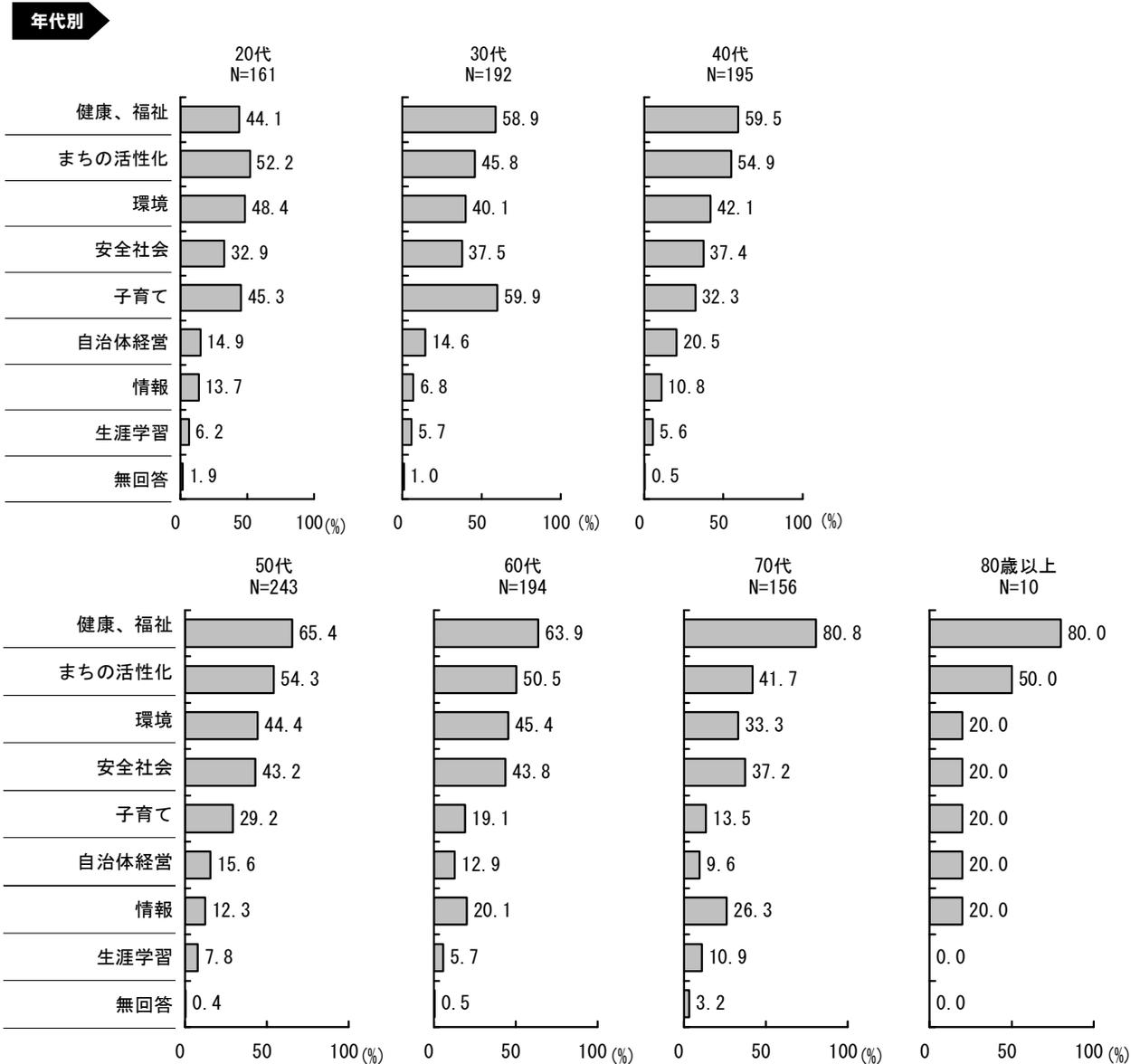
牧之原市が特に重視すべきと考える課題は、「健康、福祉」と回答したが最も多く、昨年よりさらに3.1ポイント上がっている。次いで「まちの活性化」「環境」と、昨年と同順になっている。

クロス集計



性別にみると、女性は特に「健康、福祉」「子育て」で男性より高いポイントを示し、関心の高さがうかがえる。

また、居住地別にみると、順位の変動はないが旧相良町では「まちの活性化」が高く、一方、旧榛原町では「環境」「安全社会」が高いため、居住地によって重要視する課題はやや異なることがわかる。



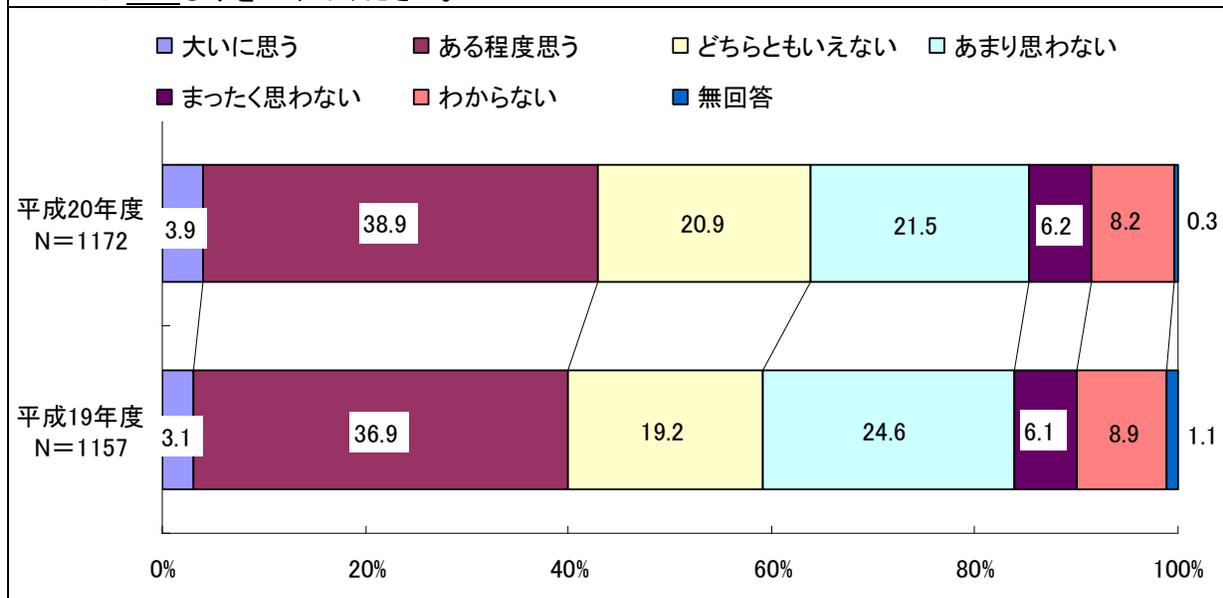
年代別にみると、30代では「子育て」が59.9%と最も関心のある課題になっている。  
また、1位の「健康、福祉」は50代以上ではいっそう高いポイントを示している。

**ポイント**

牧之原市が最も重視すべき課題は、「健康、福祉」と考える市民が最も多いが、性別・居住地・年代によってその比率は異なる。

＜市からの情報提供についてお聞きします＞

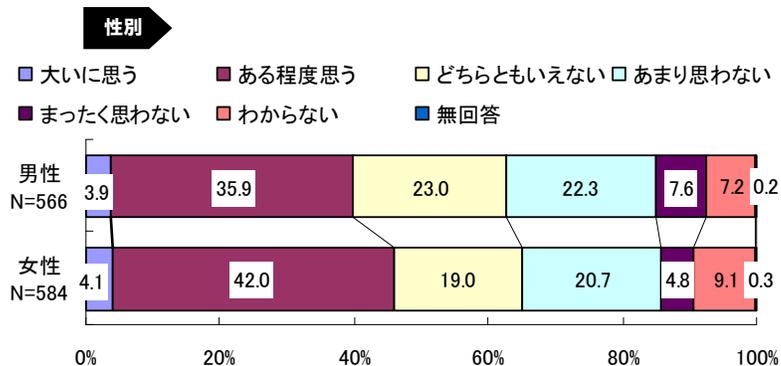
問7 市役所から市民のみなさんに対し、様々な情報が発信されていると思いますか？あてはまるものに1つ印をつけてください。



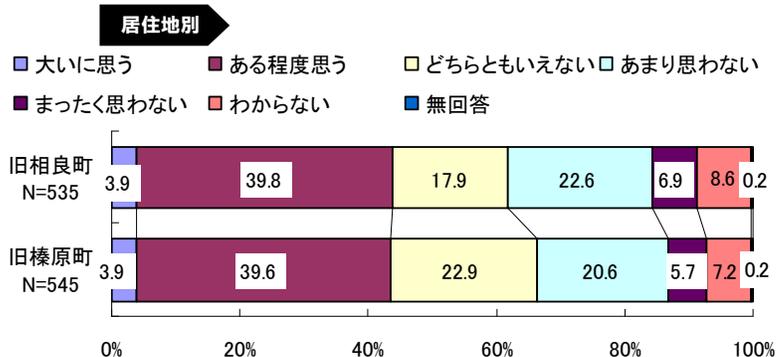
市役所からの情報発信は「大いに（されていると）思う」「ある程度（されていると）思う」の合計が42.8%、「あまり（されていると）思わない」「まったく（されていると）思わない」の合計が27.7%となっており、「情報発信されている」は昨年よりも2.8ポイント上がっている。

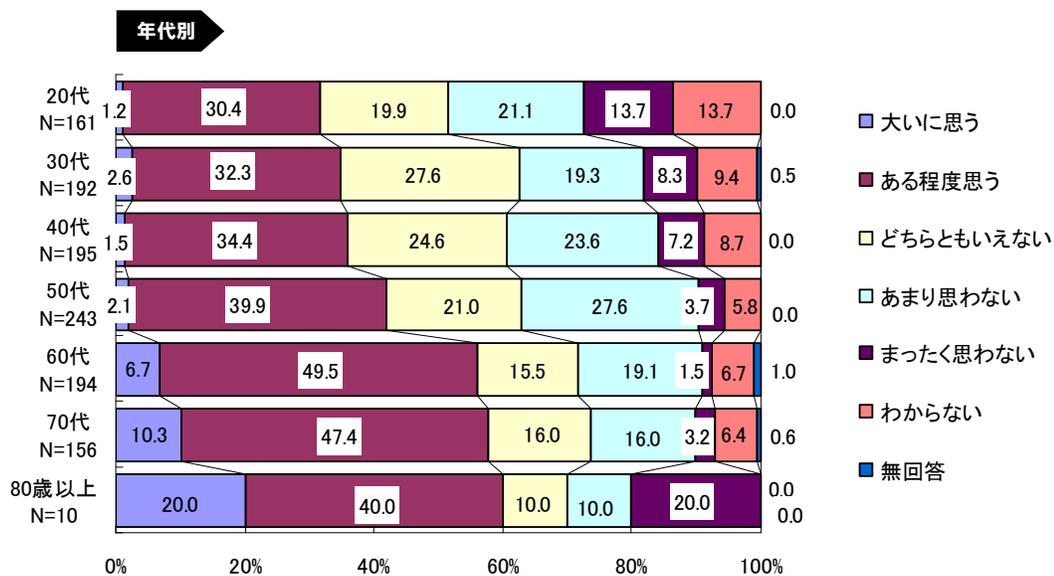
クロス集計

性別にみると、女性は“情報発信されている”が46.1%と、男性よりも6.3ポイント高くなっている。



居住地別にみると、居住地による認識の差はほぼないといえる。



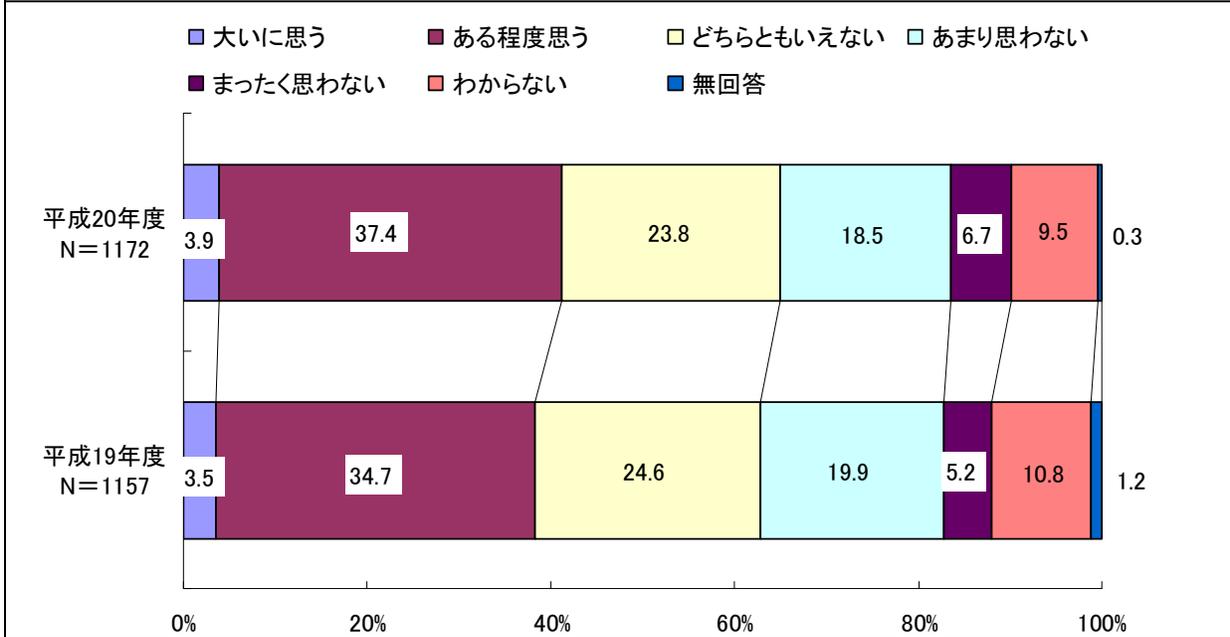


年代別にみると、年代が上がるほど“情報発信されている”が高くなり、60代以上では過半数を超えている。

ポイント

市役所からの情報発信がされていると思う市民は42.8%  
高齢者（60代以上）では、その割合は50%を超える。

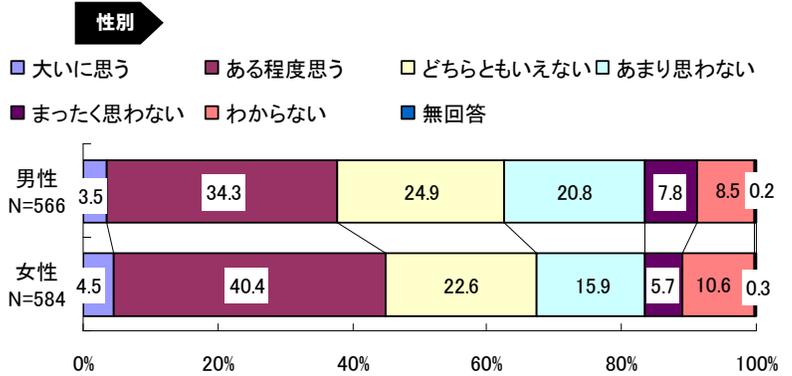
問8 市から発信している情報が役に立っていると思いますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。



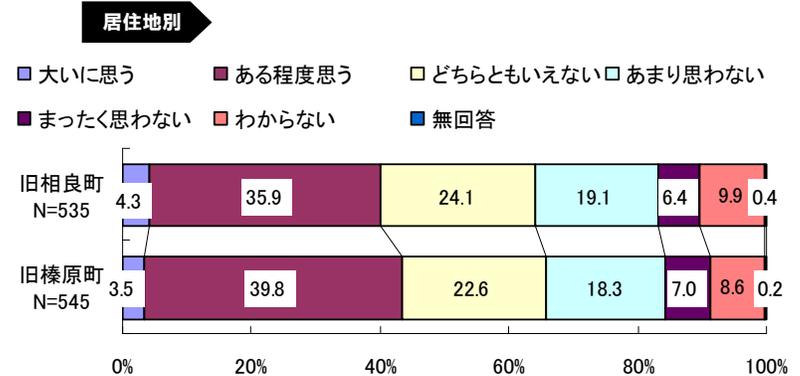
市から発信している情報が役立っていると「大いに思う」「ある程度思う」の合計が41.3%、「あまり思わない」「まったく思わない」の合計が25.2%となっており、「役立っている」は昨年よりも3.1ポイント上がっている。

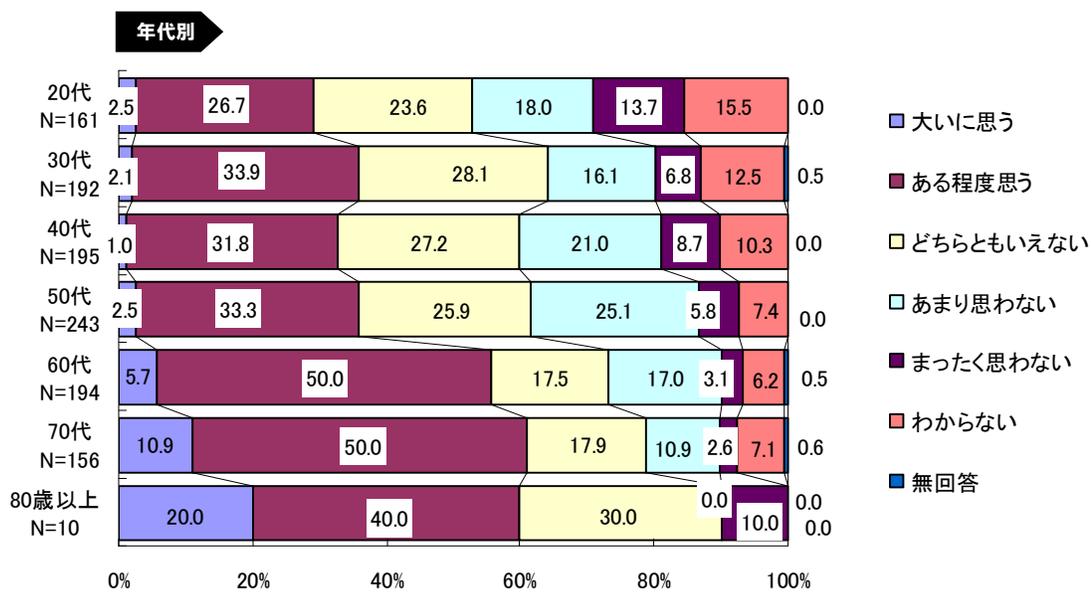
クロス集計

性別にみると、女性は“役立っている”が44.9%と、男性よりも7.1ポイント高くなっている。



居住地別にみると、旧榛原町の方が旧相良町よりも“役立っている”がやや高くなっている。



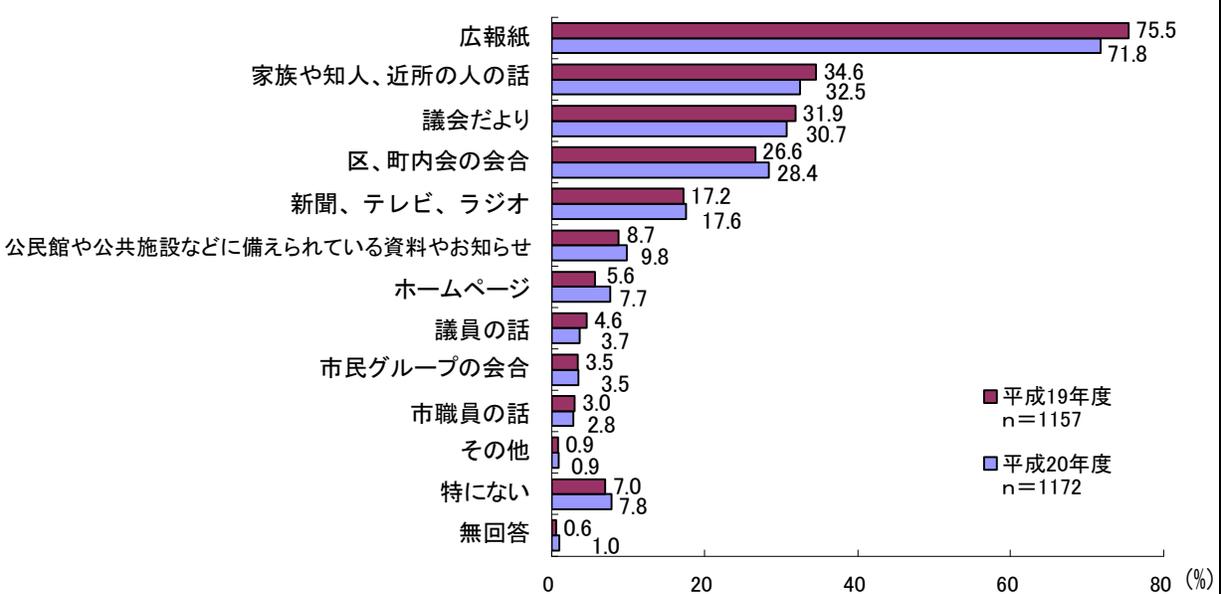


年代別にみると、年代が上がるほど“役立っている”が高くなり、60代以上では過半数を超える。

ポイント

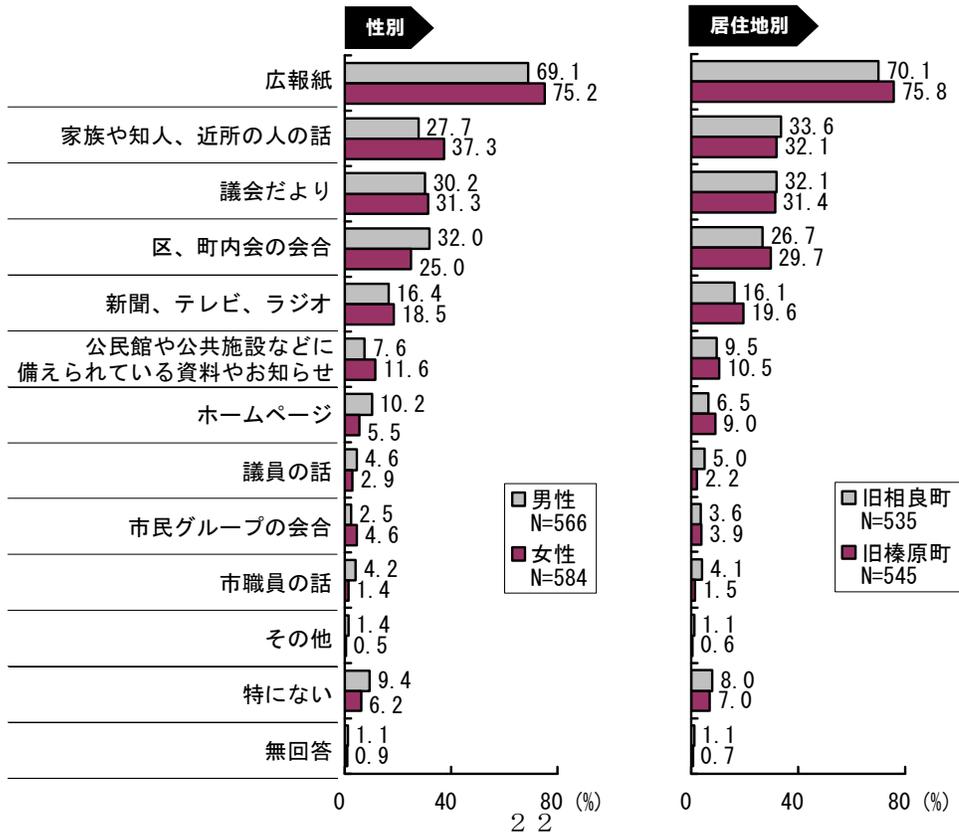
市からの情報が役立っていると思う市民は41.3%  
年代が上がるほど、“役立っている”は高くなる。

問9 市の取組みや行事を何によって知ることが多いですか？あてはまるもの全てに○印をつけてください。



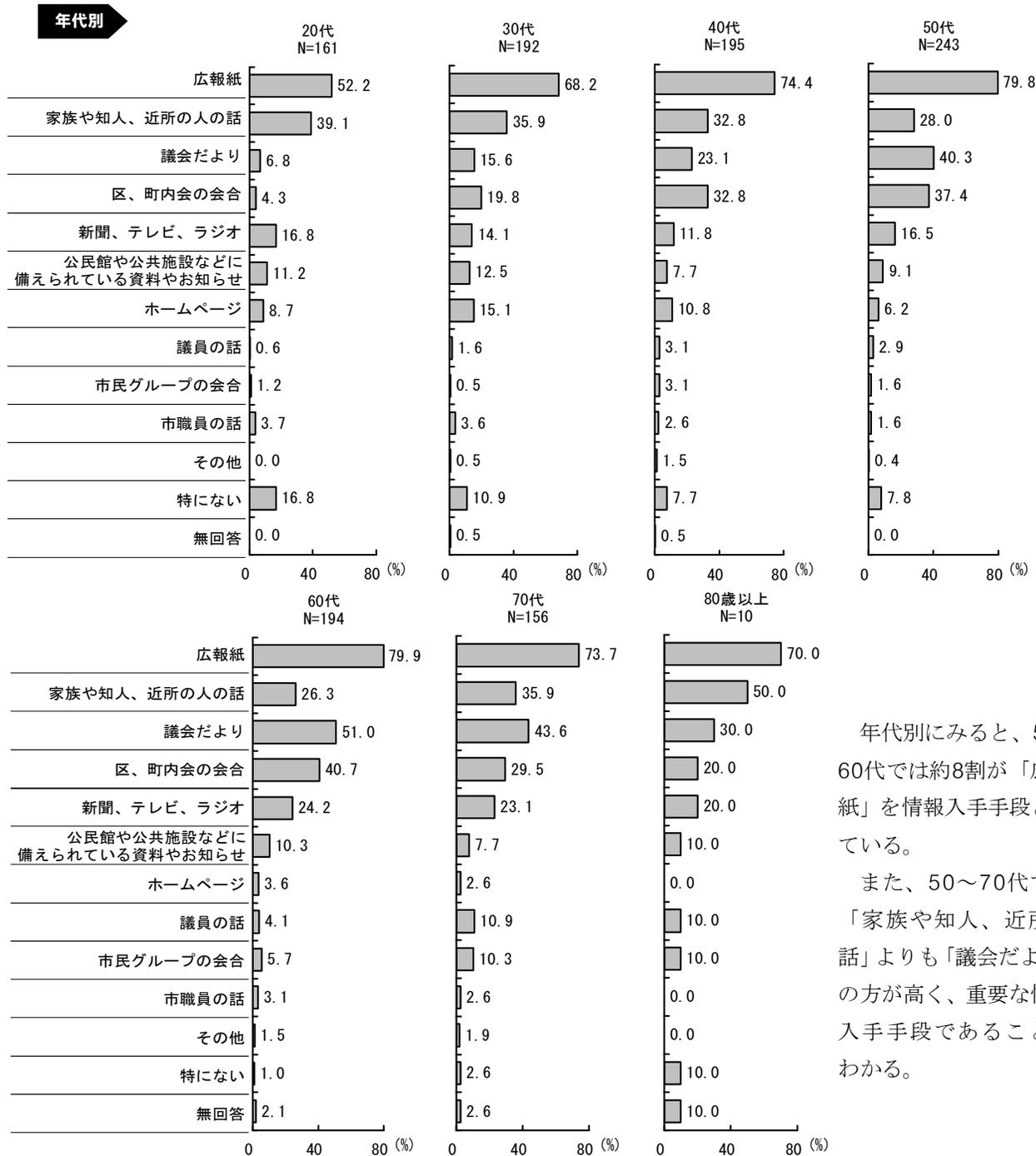
牧之原市の取組みや行事などの情報の入手手段は、「広報紙」が71.8%と最も多く、次いで「家族や知人、近所の話」「議会だより」と、昨年と同順だが、いずれもポイントは下がっており、代わりに「区、町内会の会合」「ホームページ」が昨年よりもわずかに上がっている。

### クロス集計



性別にみると、女性は「広報紙」「家族や知人、近所の話」が男性よりも特に高く、男性では「区、町内会の会合」「ホームページ」が女性よりも特に高いという特徴がみられる。

居住地別にみると、旧榛原町の方が旧相良町よりも「広報紙」を情報入手手段として捉えている割合が5ポイント以上高くなっているものの、他の手段については居住地による違いはみられない。



年代別にみると、50・60代では約8割が「広報紙」を情報入手手段としている。

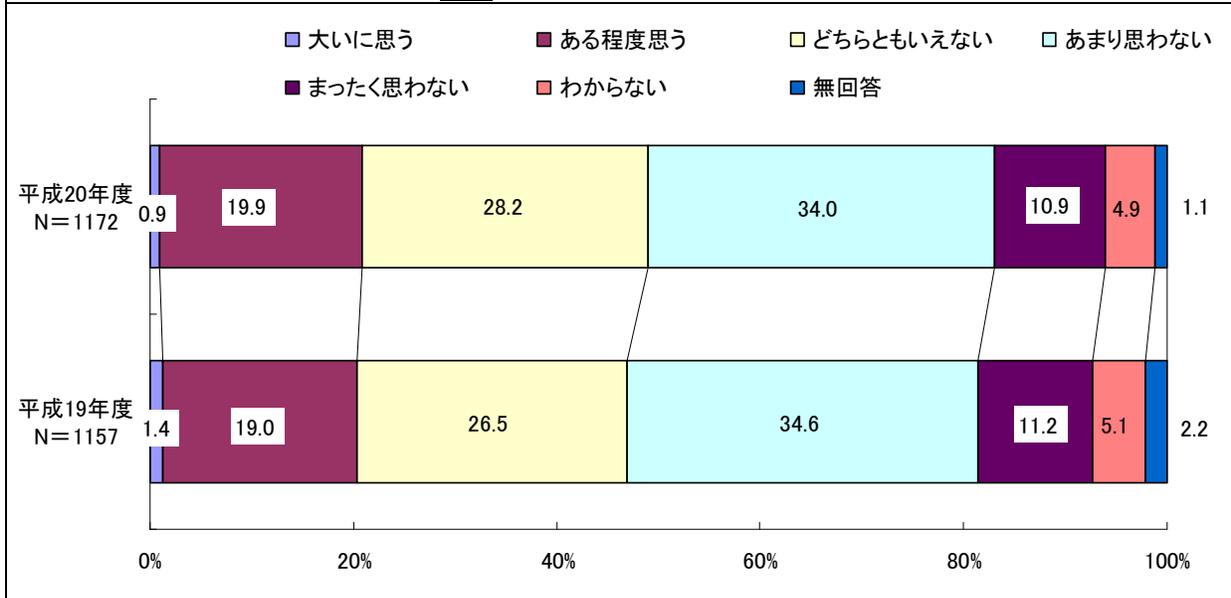
また、50～70代では「家族や知人、近所の話」よりも「議会だより」の方が高く、重要な情報入手手段であることがわかる。

**ポイント**

市の情報の入手手段は、「広報紙」という回答が71.8%と圧倒的  
他の情報手段に2倍以上ポイントを引き離している。

＜市民の道徳性や思いやりについてお聞きします＞

問10 あなたは、日常生活の中で、きまりを守れたり、思いやりなどを持ったが<sup>1</sup>増えていると思えますか？<sup>2</sup>あてはまるものに1つ〇印をつけてください。

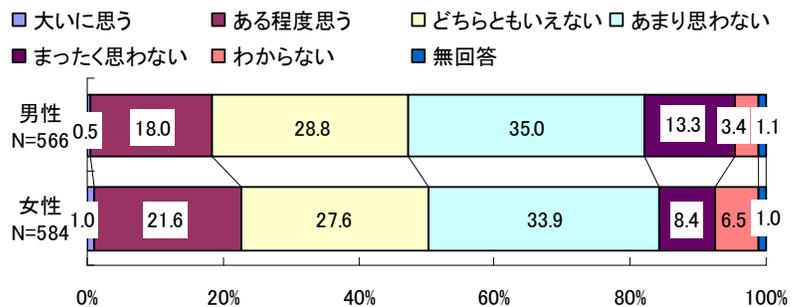


日常生活の中で、きまりを守れたり、思いやりを持ったが<sup>1</sup>増えていると「大いに思う」「ある程度思う」の合計が20.8%、「あまり思わない」と「まったく思わない」の合計が44.9%となっており、昨年とほとんど変化はみられない。

クロス集計

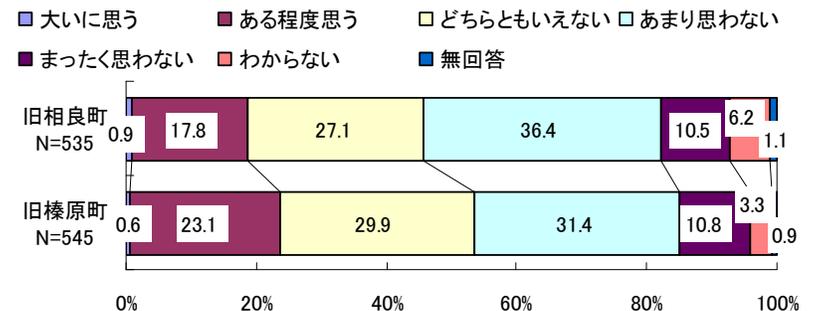
性別

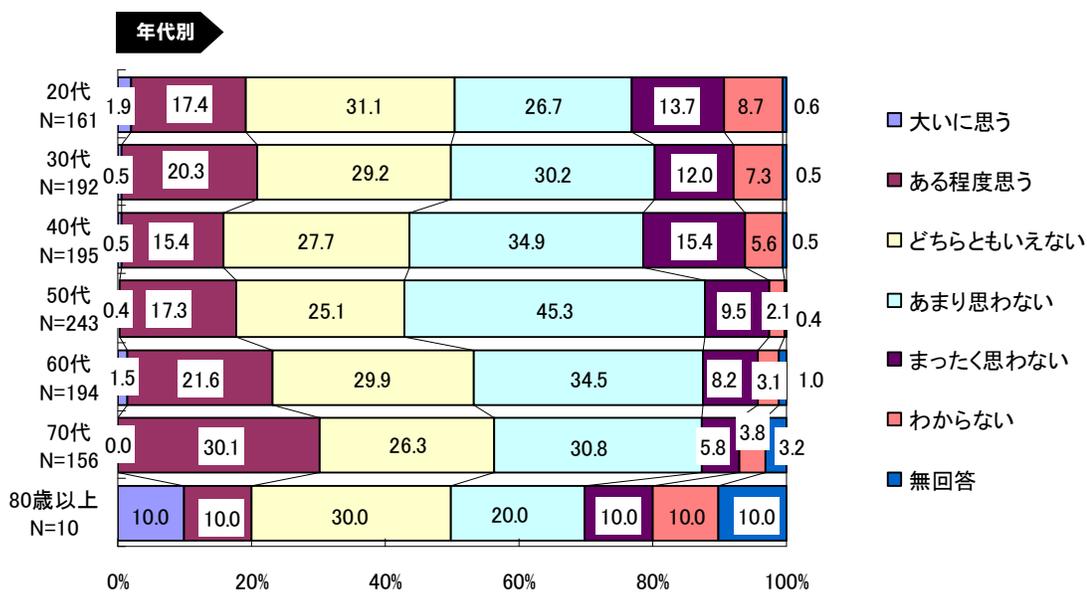
性別にみると、女性の方が“増えている”が男性よりも4.1ポイント高くなっている。



居住地別

居住地別にみると、旧榛原町の方が旧相良町よりも“増えている”が5ポイント高くなっている。





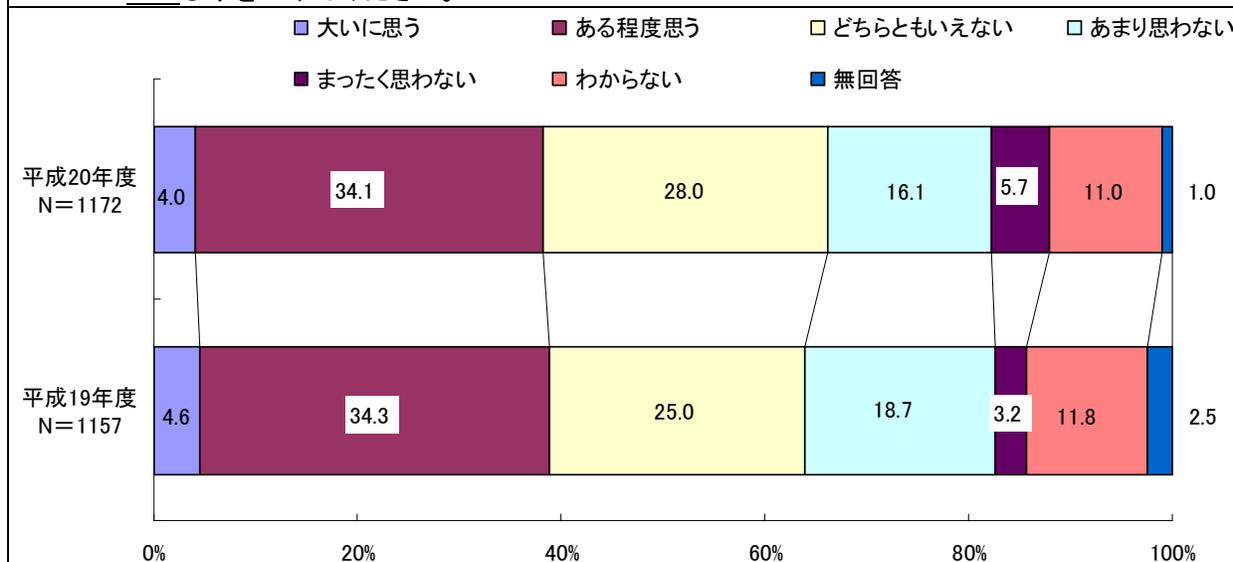
年代別にみると、40・50代では、“増えている”が他の年代に比べてやや低く、厳しい評価となっている。

ポイント

日常生活の中で、きまりを守れたり、思いやりを持ったが増えていると思う市民は20.8%  
40・50代では、その割合はさらに下がる。

<子どもの育てやすさについてお聞きします>

問11 牧之原市は、市民にとって子どもを子育てしやすいところだと思いますか？あてはまるものに1つ印をつけてください。

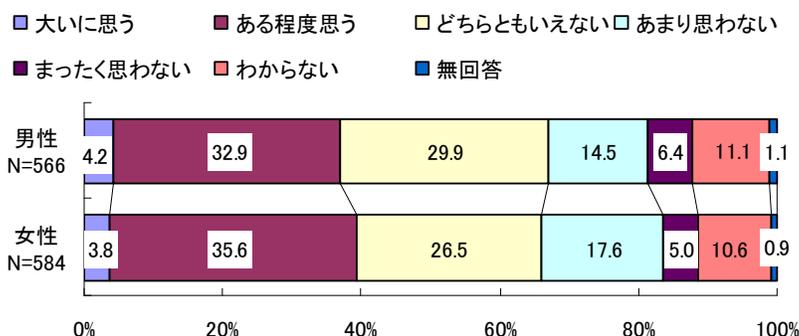


牧之原市は子どもを子育てしやすいところだと「大いに思う」「ある程度思う」の合計が38.1%、「あまり思わない」「まったく思わない」の合計が21.8%となっており、昨年とほとんど変化はみられない。

クロス集計

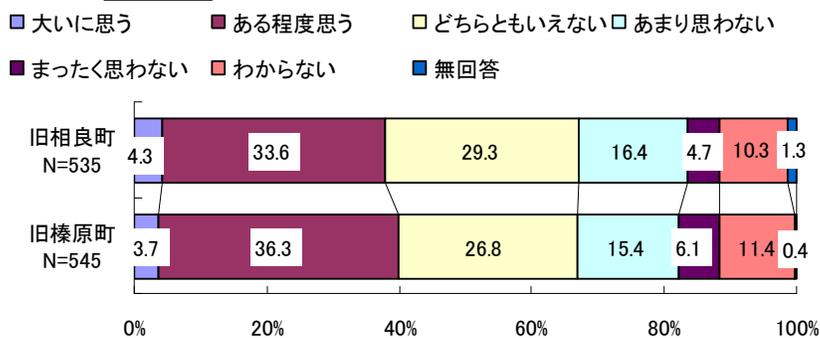
性別

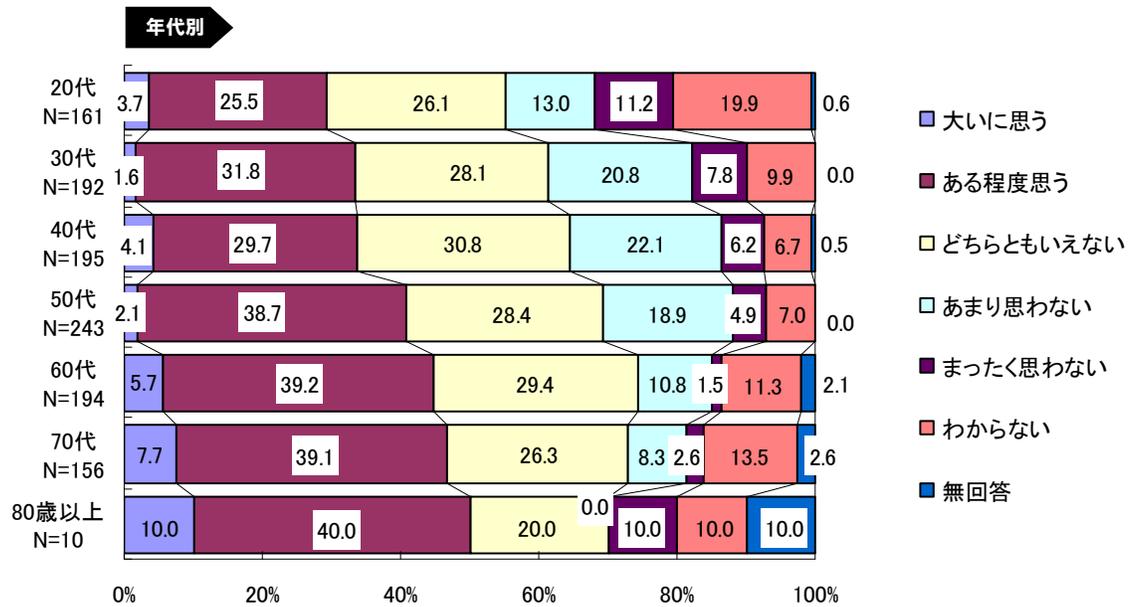
性別にみると、「子どもを子育てしやすい」は女性の方が、男性よりも4.1ポイント高くなっている。



居住地別

居住地別にみると、居住地による意識の違いはほぼないといえる。





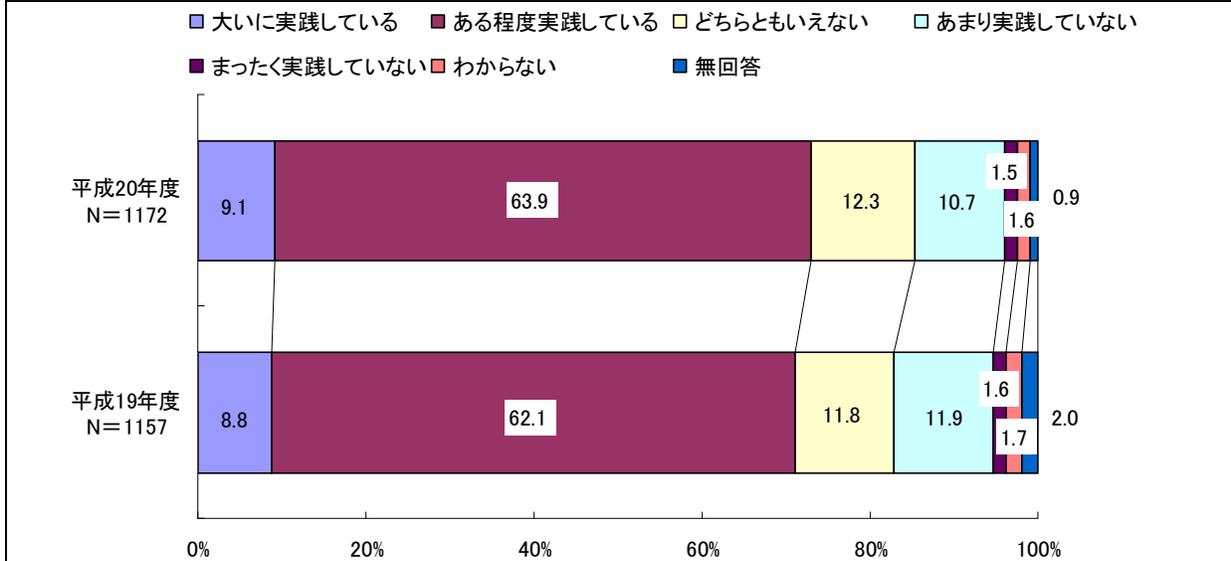
年代別にみると、「あまり思わない」「まったく思わない」は20～50代の子育て中や子育て終了もない年代では割合が高くなっている。

ポイント

牧之原市は子どもを生き育てやすいところだと思う市民は 38.1%と決して高くない。  
特に、現在子育て中の年代では厳しい評価となっている。

<環境に配慮した暮らしについてお聞きします>

問12 環境を守るための行動として、節電、節水、リサイクルなど、そして清掃美化、緑化、自然保護などの活動を実践していますか？あてはまるものに1つ〇印をつけてください。

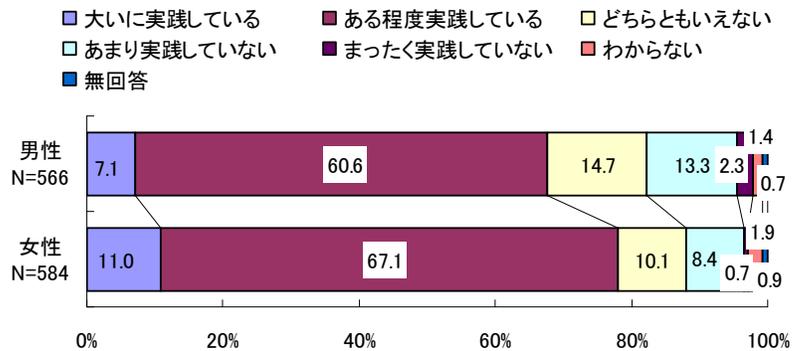


環境を守るための活動を「大いに実践している」「ある程度実践している」の合計が73.0%、「あまり実践していない」「まったく実践していない」の合計が23.0%となっており、「実践している」は昨年よりも2.1ポイント上がっている。

クロス集計

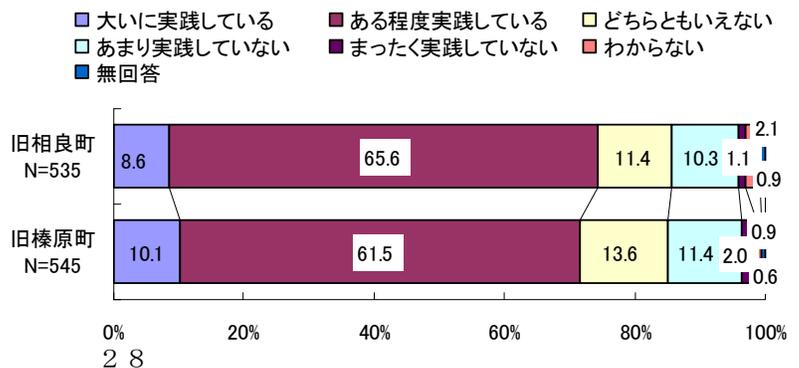
性別にみると、女性の方が“実践している”が男性よりも10.4ポイント高く、環境配慮に意識的といえる。

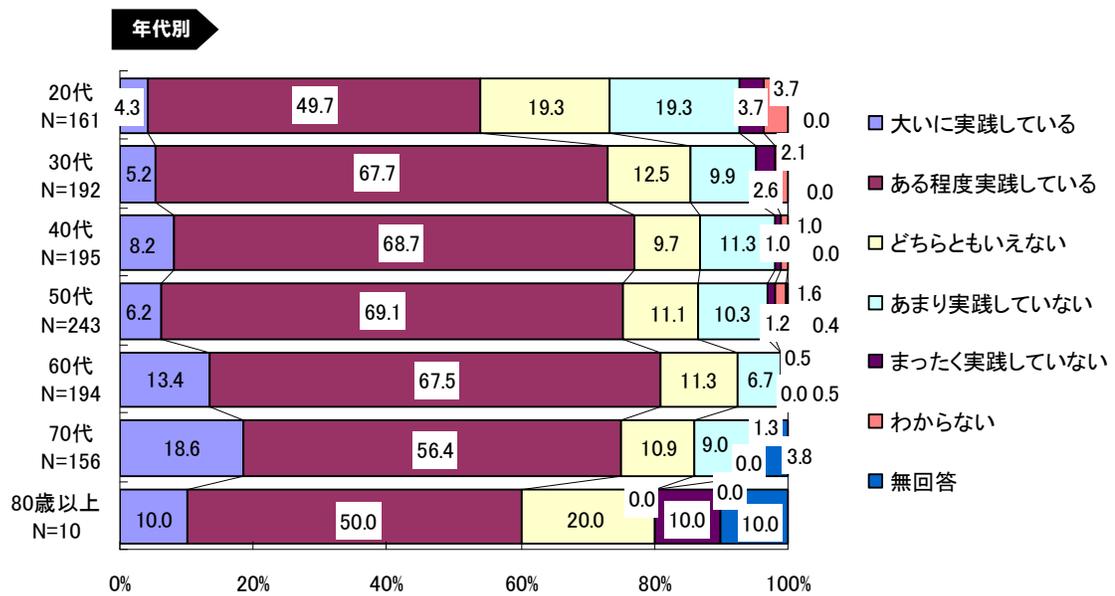
性別



居住地別にみると、ほとんど差はないものの、旧相良町の方がやや“実践している”が高くなっている。

居住地別





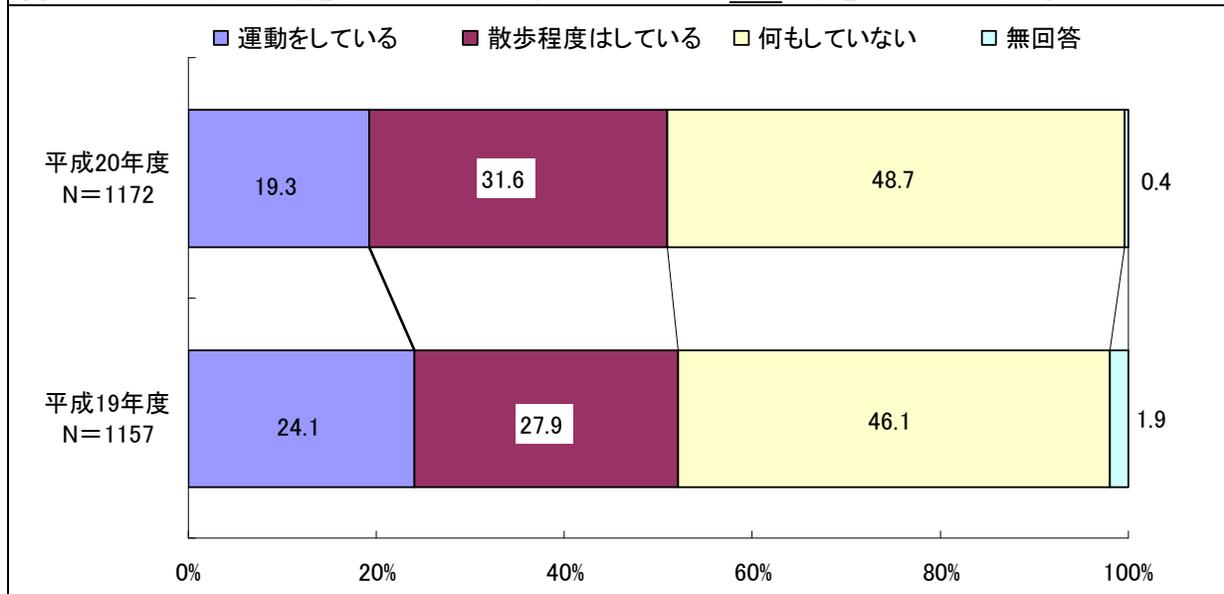
年代別にみると、20代では“実践している”は5割強だが、30代以上では7～8割を占めている。

ポイント

環境を守るための活動を実践している市民は73.0%  
環境意識の高い市民が多い。

<日常的な運動についてお聞きします>

問13 ふだん何か運動をしていますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。

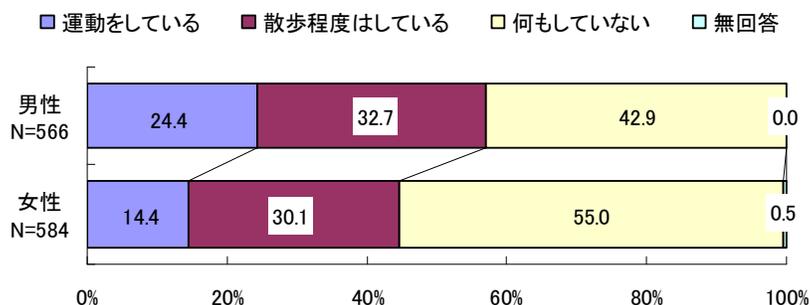


ふだん運動を「何もしていない」が48.7%と半数近くを占め、次いで「散歩程度はしている」「運動をしている」と昨年と同順になっているが、「運動をしている」は4.8ポイント下がっている。

クロス集計

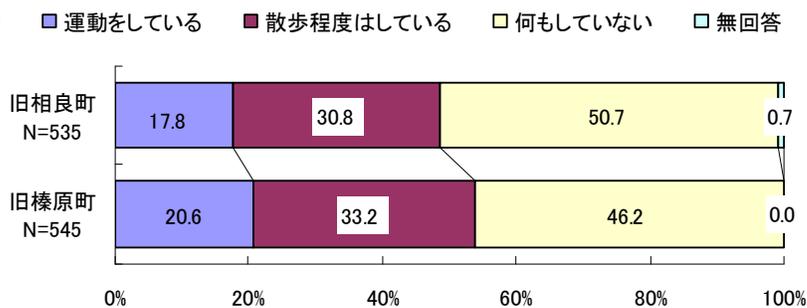
性別

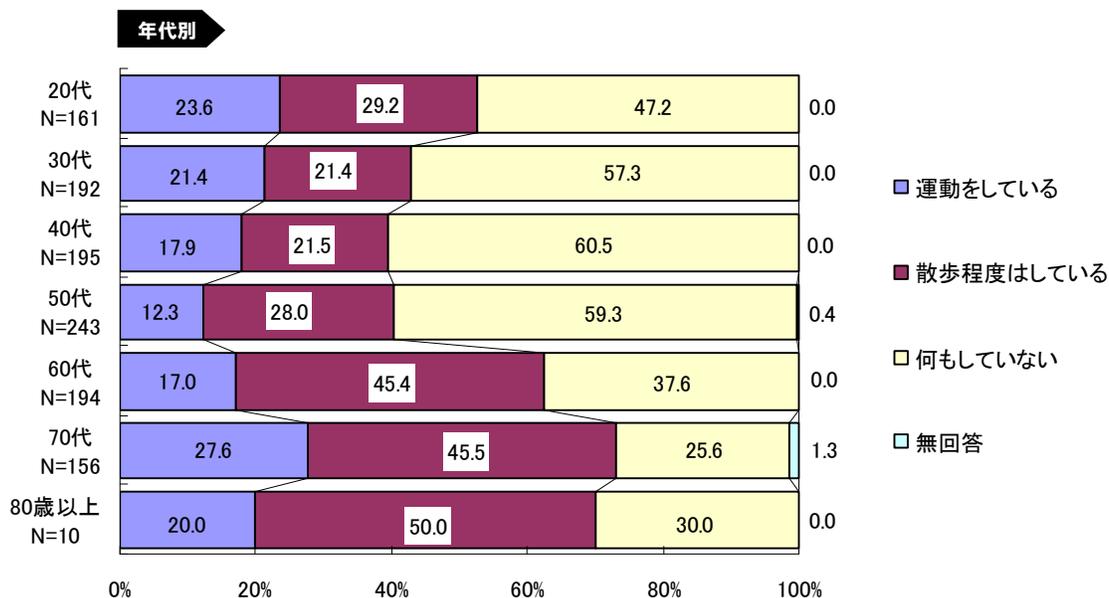
性別にみると、男性の方が「運動をしている」が女性よりも10ポイント高くなっている。



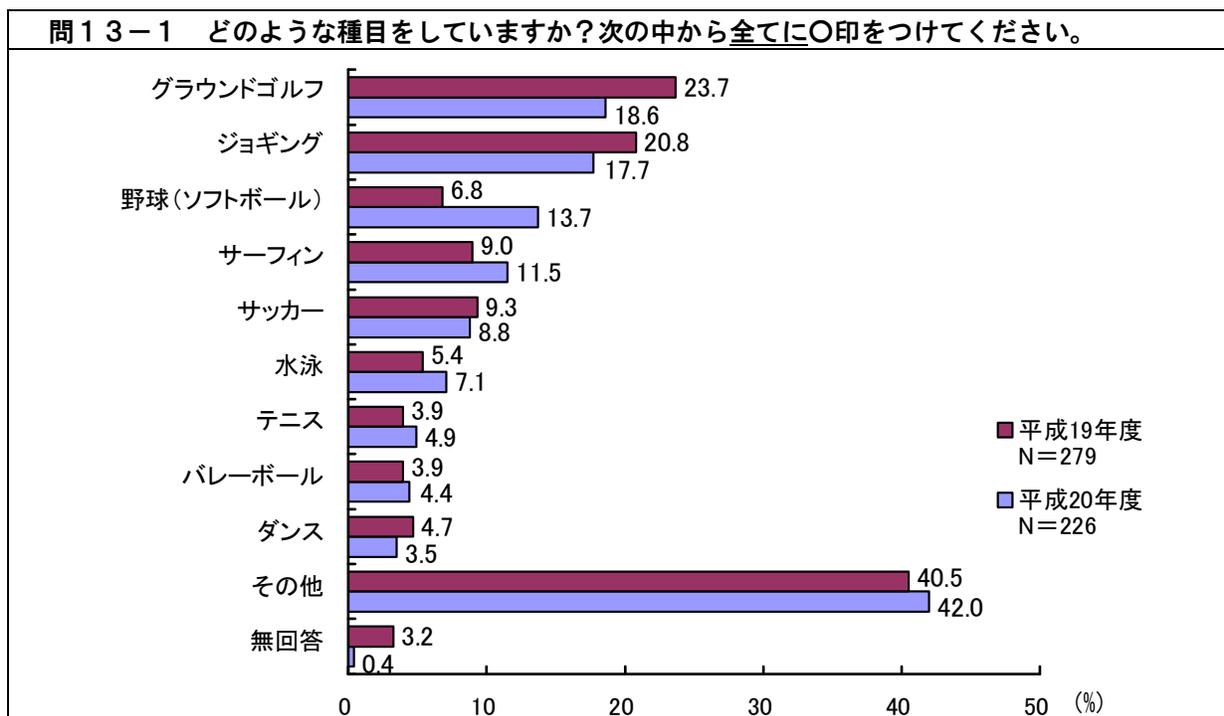
居住地別

居住地別にみると、旧相良町の方が旧榛原町よりも「何もしていない」が4.5ポイント高くなっている。





年代別にみると、「何もしていない」は30～50代で過半数を超える一方、70代では25.6%と大幅に低くなり、代わりに「運動をしている」割合が27.6%と他の年代と比べて最も高くなる。

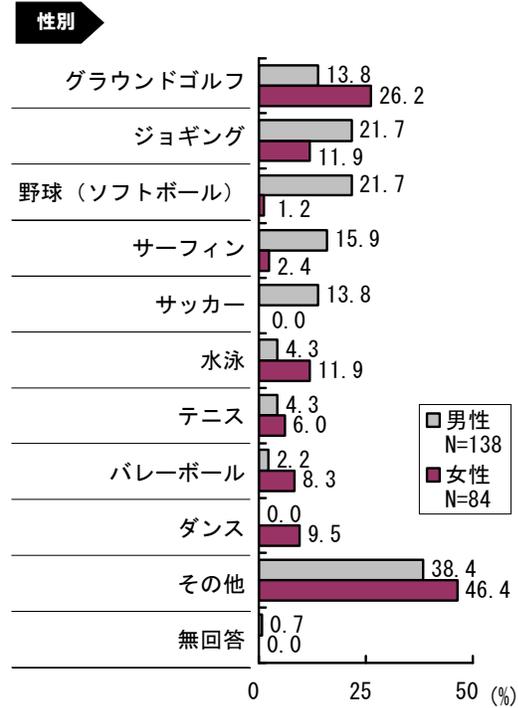


問13で「ふだんから運動をしている」と回答した226人の行っている具体的な種目は、「その他」を除き「グラウンドゴルフ」が最も多く、次いで「ジョギング」「野球(ソフトボール)」となっている。昨年と1位、2位に変動はないがどちらもポイントを下げ、「野球(ソフトボール)」が6.9ポイント上がって3位となっている。

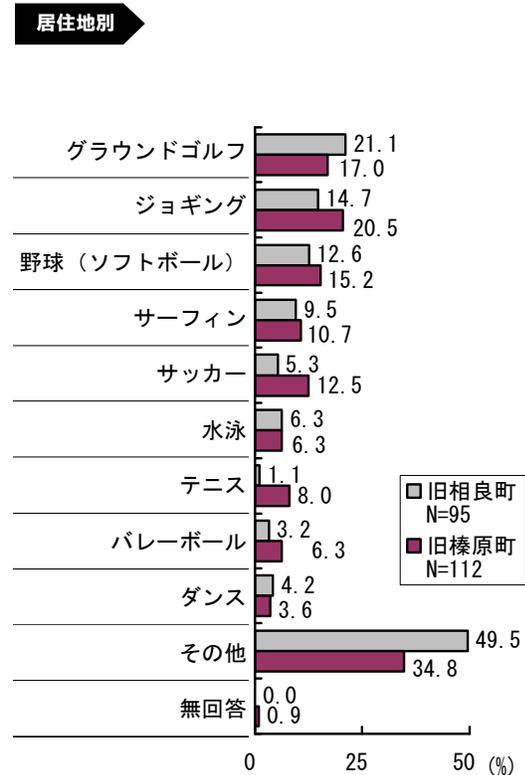
## クロス集計

性別にみると、「グラウンドゴルフ」は男性よりも女性で10ポイント以上高くなっている。

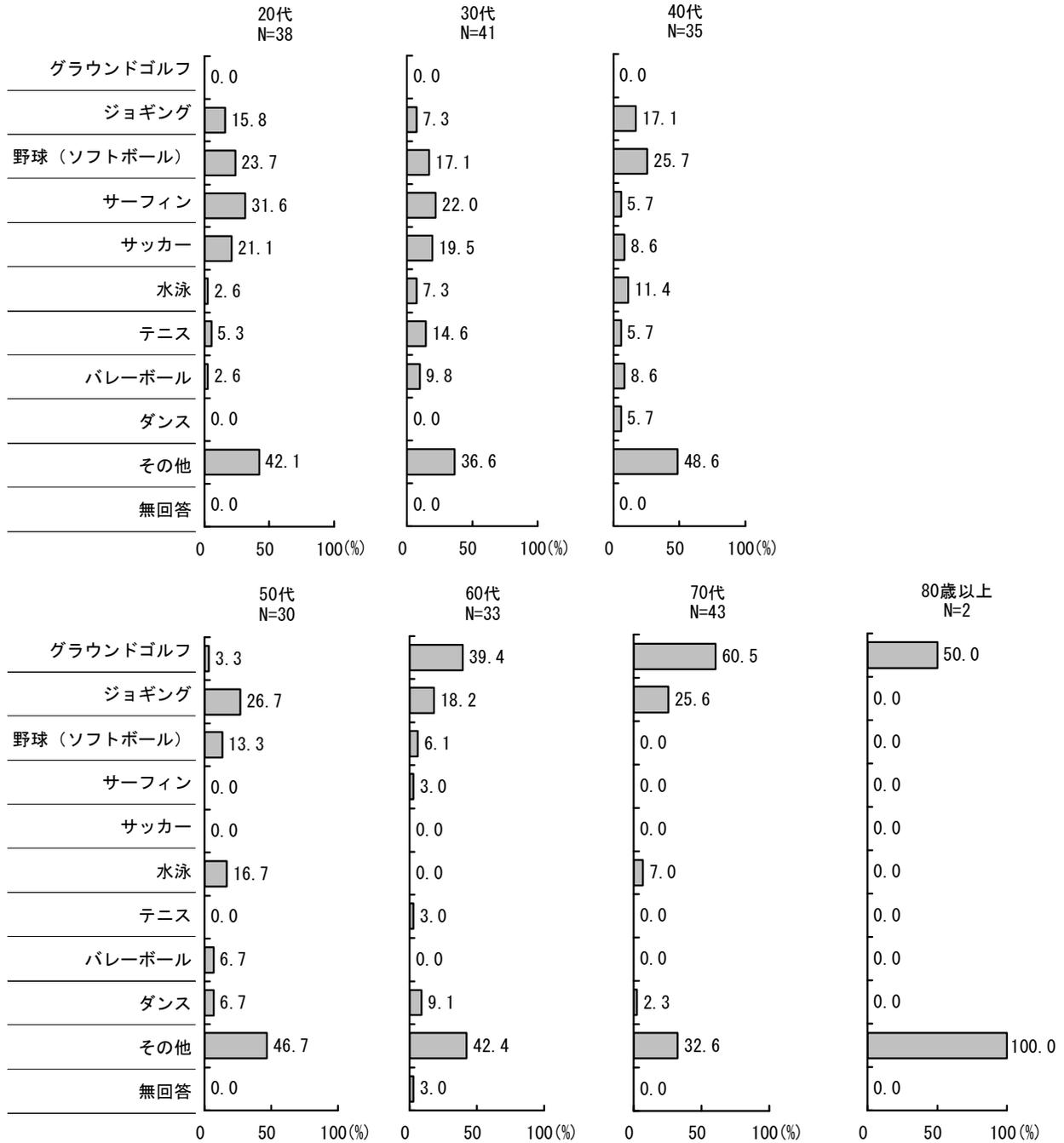
一方、男性では「ジョッキング」「野球（ソフトボール）」「サーフィン」「サッカー」が女性よりも10ポイント以上高くなっており、性別によって行う運動種目は違うことがわかる。



居住地別にみると、旧相良町では「その他」が半数近くを占めるため、旧榛原町のポイントが高くなっている種目が多い。

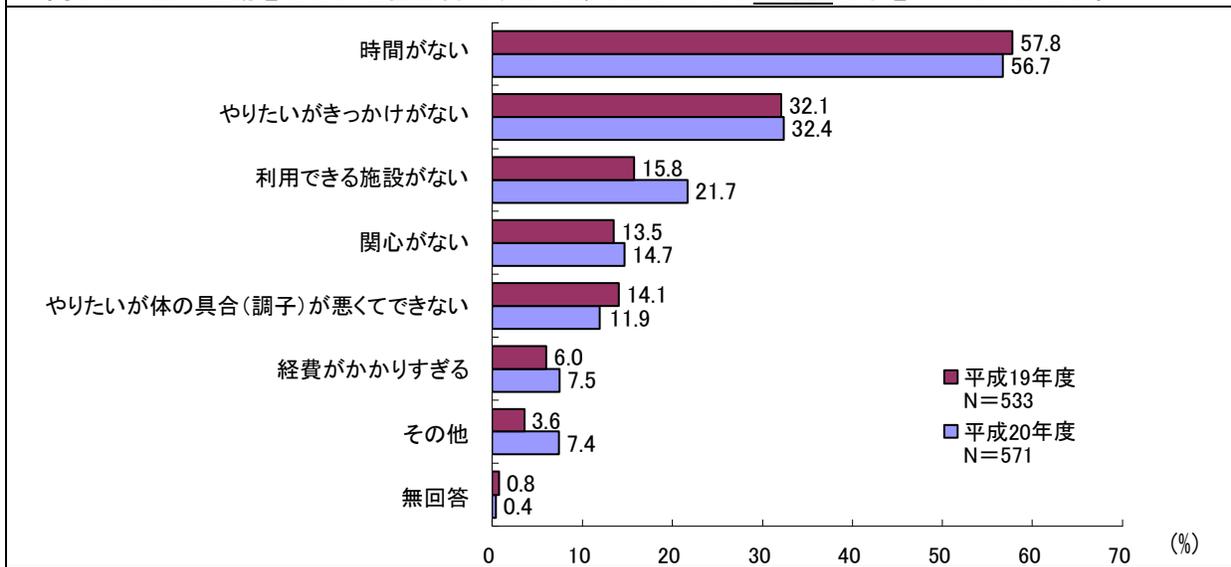


年代別



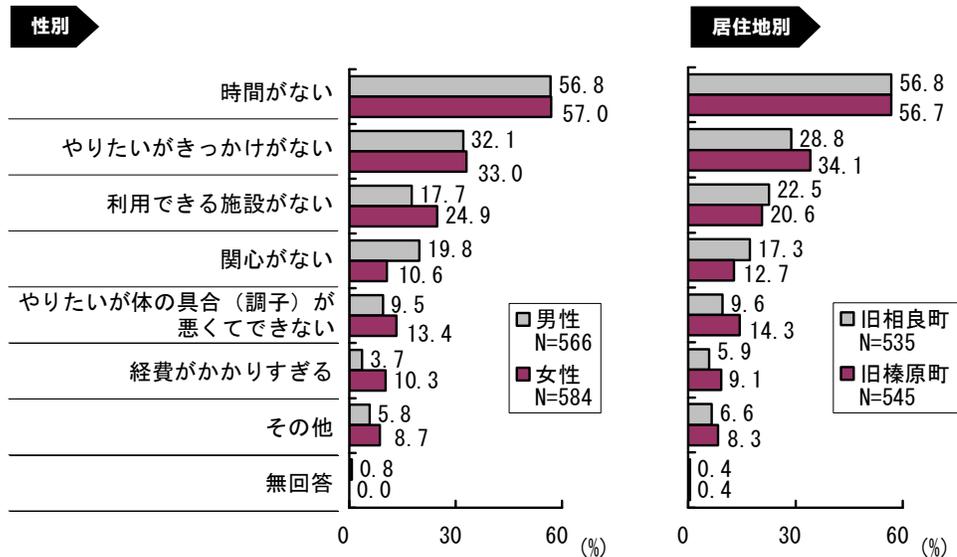
年代別にみると、1位の「グラウンドゴルフ」は60代以上の支持を得ていることがわかる。20代では「サーフィン」、30代では「テニス」、40代では「野球 (ソフトボール)」、50代では「水泳」が他の年代に比べて行われている種目となっている。

問13-2 運動をしない理由は何ですか？あてはまるもの全てに○印をつけてください。



問13で「何も運動をしていない」と回答した571人の運動をしない理由は、「時間がない」が56.7%と最も多く、次いで「やりたいがきっかけがない」「利用できる施設がない」と昨年と同順になっている。

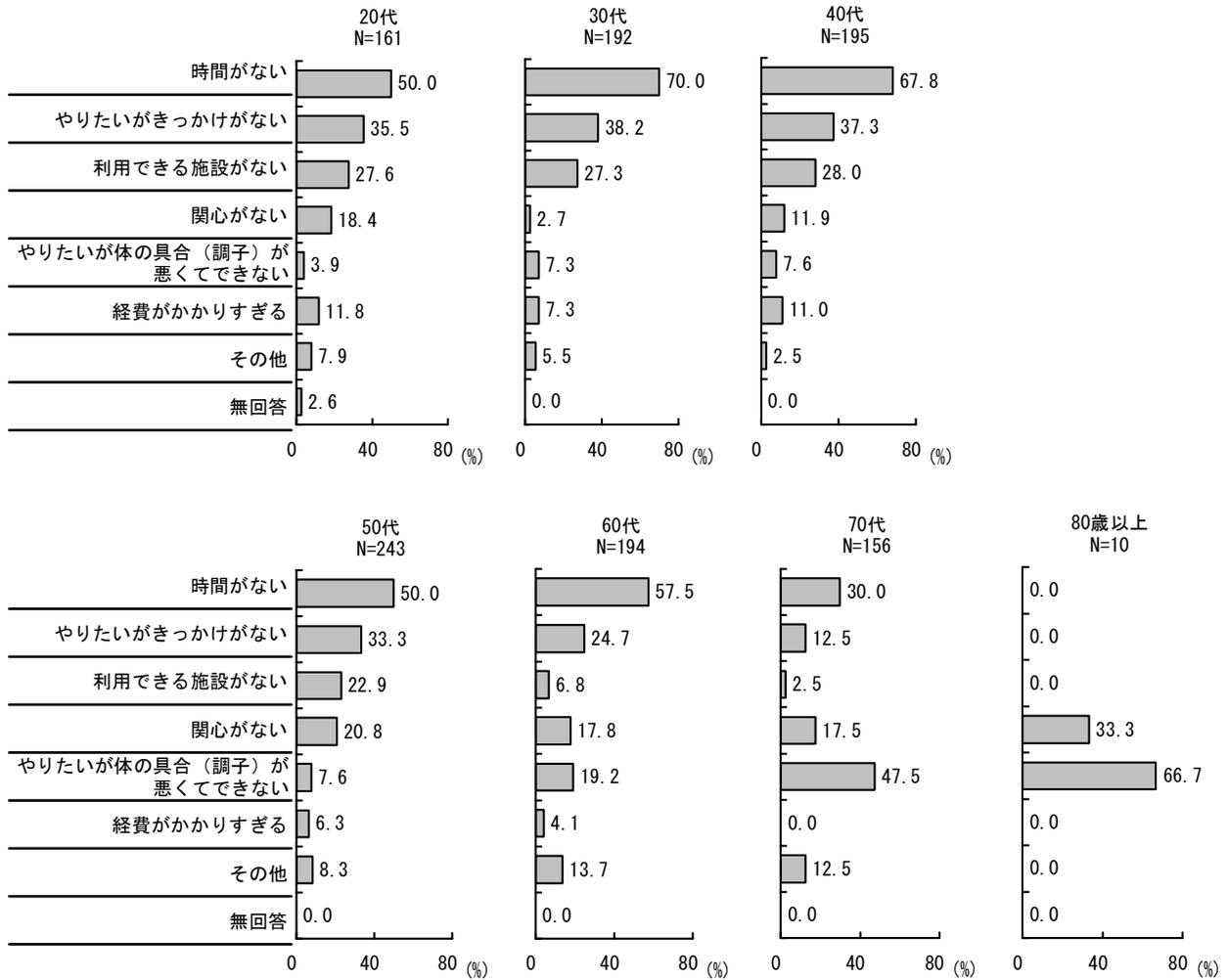
クロス集計



性別にみると、女性では「利用できる施設がない」「経費がかかりすぎる」が男性に比べて高く、男性では「関心がない」が女性に比べて高くなっており、性別によって運動をしない理由に違いがあらわれている。

居住地別にみると、旧相良町では「関心がない」が旧榛原町に比べて高く、旧榛原町では「やりたいが体の具合(調子)が悪くてできない」が旧相良町に比べて高くなっている。

年代別



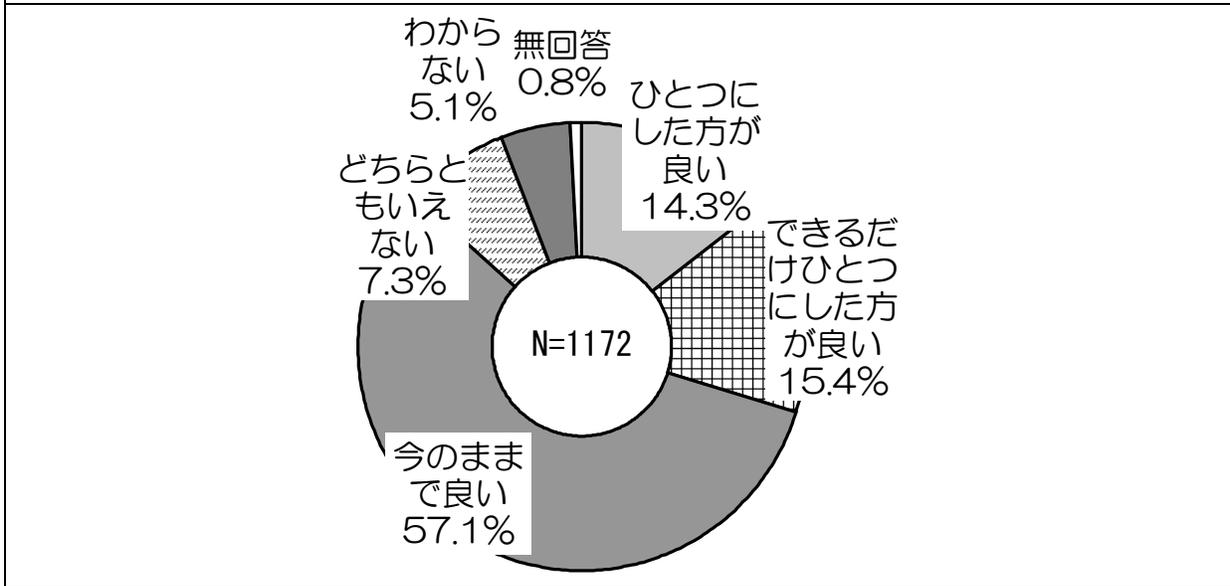
年代別にみると、「時間がない」は30・40代で特に割合が高く、多忙な年代であることを象徴している。また、70代以上になると老化の影響と思われる「やりたいが体の具合(調子)が悪くてできない」が高くなっている。

ポイント

ふだんから運動をしている市民はわずかに19.3%  
運動をしない最も多い理由は、「時間がない」

<行政の効率的な運営についてお聞きします>

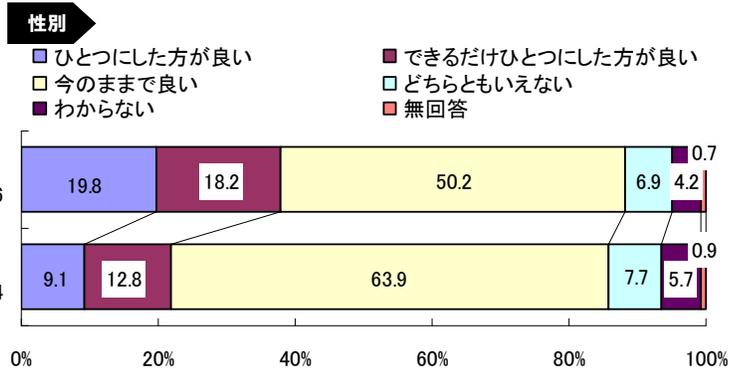
問14 現在、牧之原市には、相良庁舎・榛原庁舎2つの庁舎がありますが、あなたはごどう思いますか？  
あてはまるものに1つ〇印をつけてください。



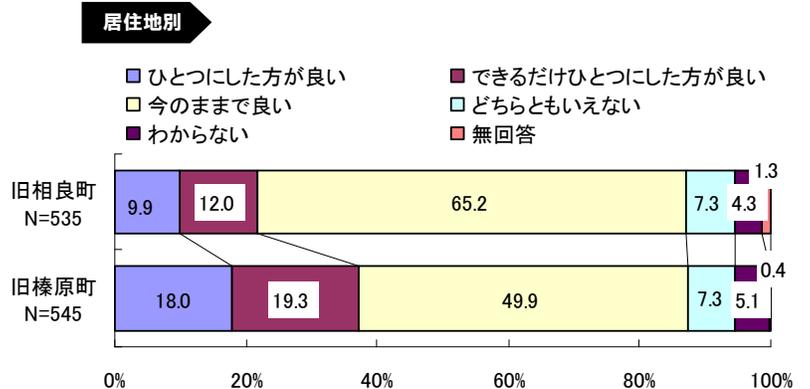
庁舎が2つあることについて、「ひとつにした方が良い」「できるだけひとつにした方が良い」の合計が29.7%、「今のままで良い」が57.1%で最も多くなっており、現状維持を望む意見が多い。

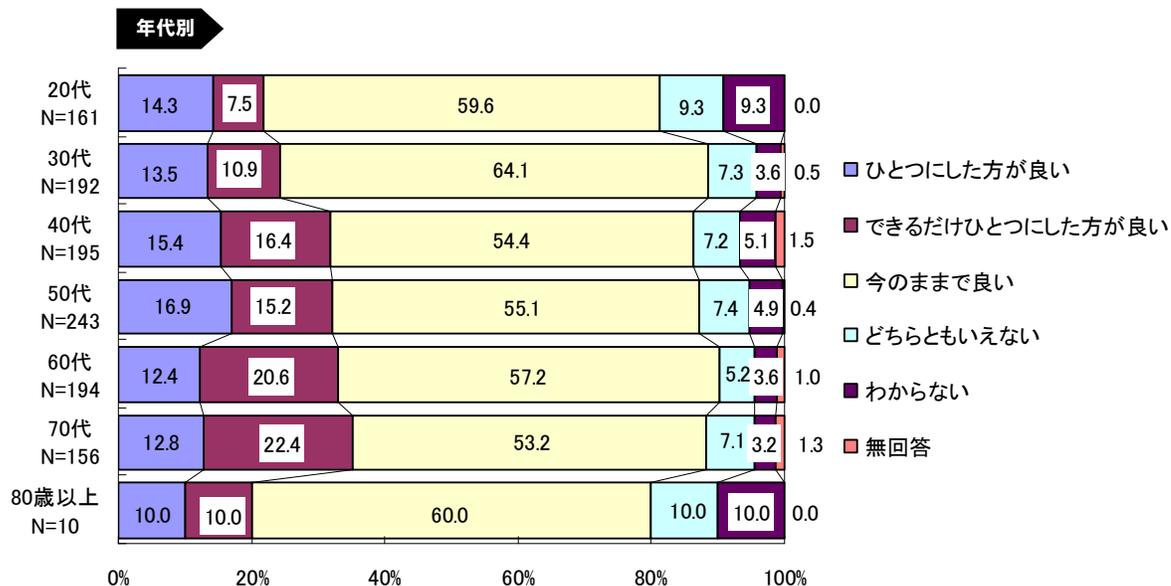
クロス集計

性別にみると、男性の方が、庁舎を“ひとつにした方が良い”が女性よりも16.1ポイント高く、男女で考え方の違いが顕著にあらわれている。



居住地別にみると、旧榛原町は、“ひとつにした方が良い”が旧相良町よりも15.4ポイント高く、居住地による考え方の違いが顕著にあらわれている。



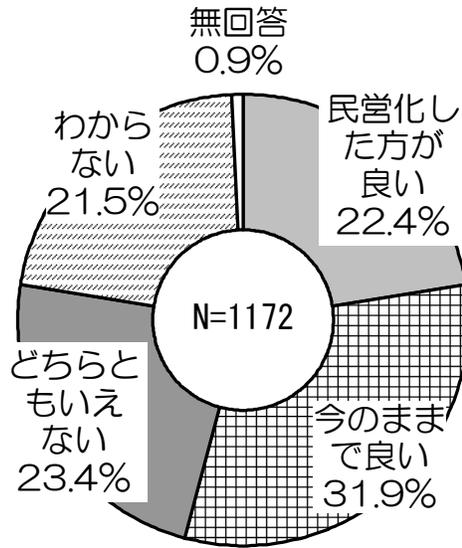


年代別にみると、20・30代では“ひとつにした方が良い”は20%強と、他の年代よりも約10ポイント低くなっている。

ポイント

市庁舎は2つある「今のままで良い」と思う市民は57.1%  
男性や旧榛原町住民では、“ひとつにした方が良い”の割合が高くなる

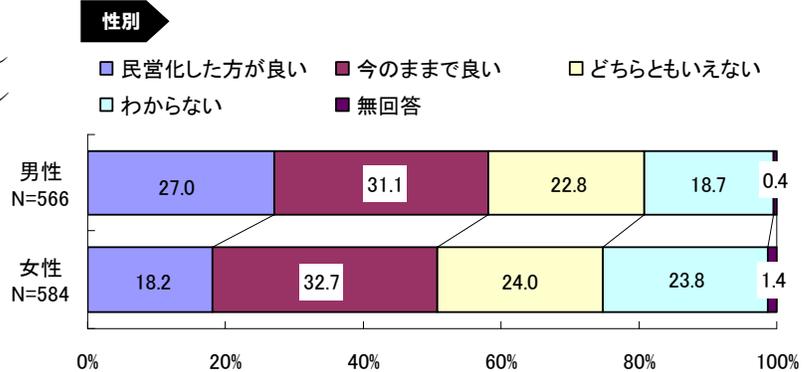
問15 現在、保育園の民営化について、関係の皆さんと協議しているところです。あなたは保育園の民営化についてどう思いますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。



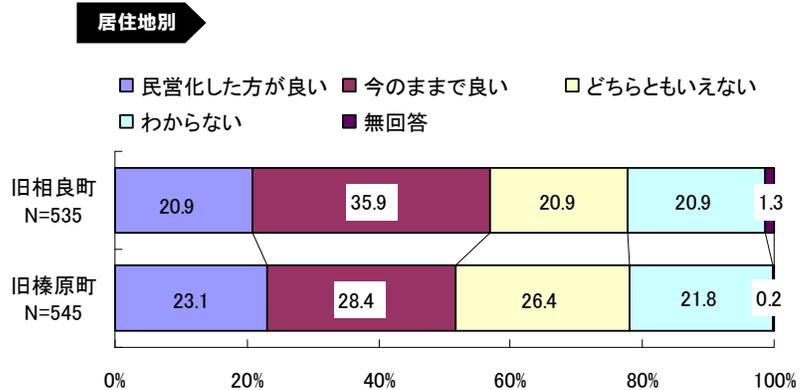
保育園は「今のままで良い」が31.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」「民営化した方が良い」「わからない」の順になっているが、各選択肢の比率に大きな偏りはなく市民の意見は分散化傾向にあるといえる。

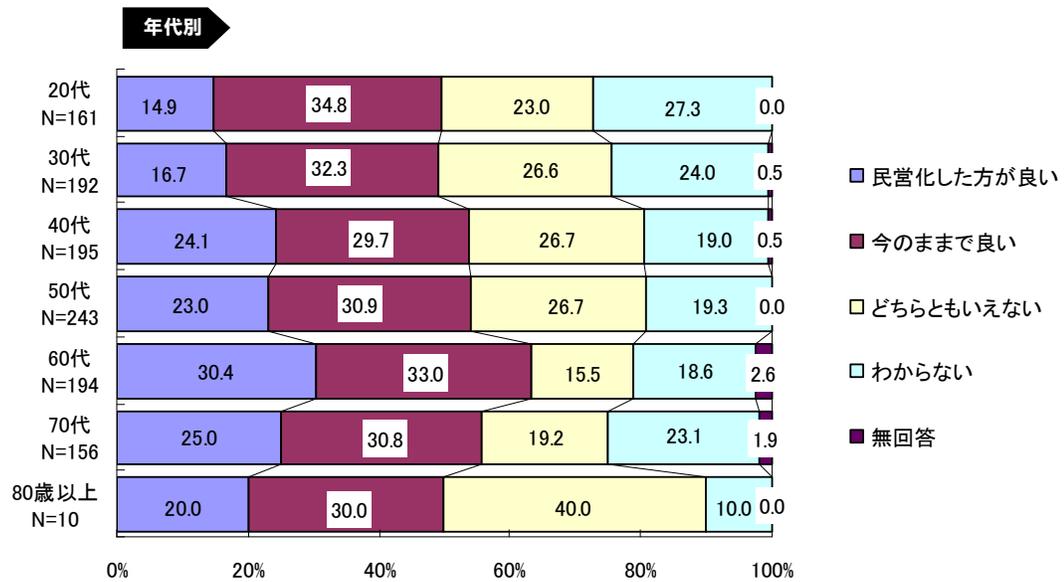
### クロス集計

性別にみると、男性の方が「民営化した方が良い」が、女性よりも8.8ポイント高くなっている。



居住地別にみると、旧相良町の方が「今のままで良い」が、旧榛原町よりも7.5ポイント高くなっている。





年代別にみると、60代では「民営化の方が良い」が3割を超え、他の年代と比べて最も高くなる。また、「どちらともいえない」は15.5%と最も低く、主張をはっきり持った人が多いといえる。

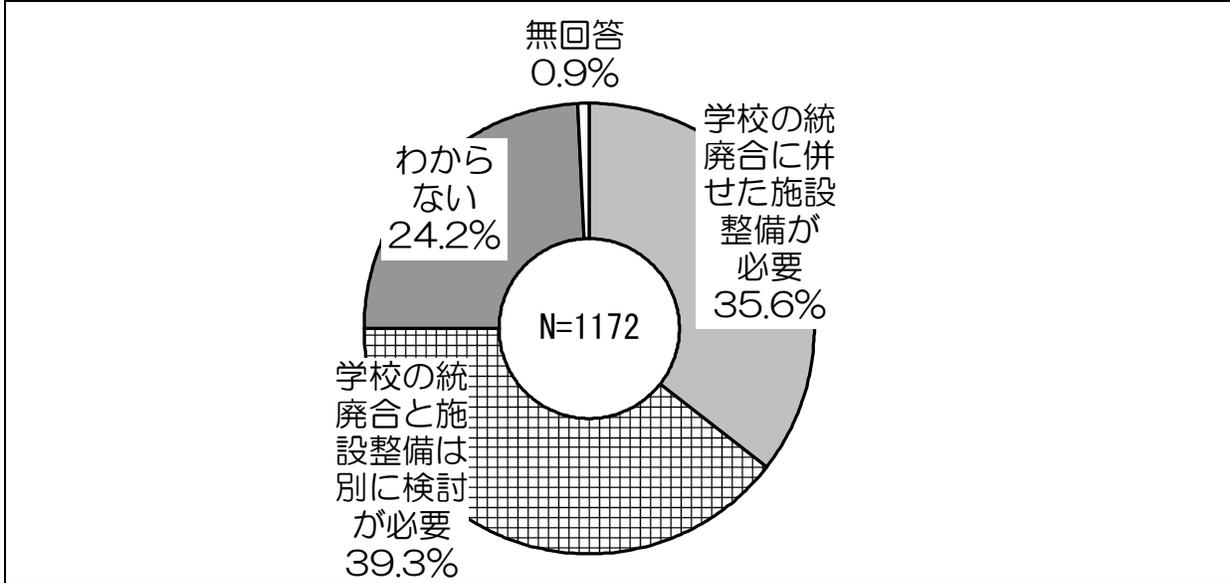
一方、実際に現在保育園児の子供がいると思われる20・30代では「今のままで良い」が他の年代と比べて高くなっている。

.....

**ポイント** 保育園は民営化せず「今のままで良い」が31.9%で最も多い。

.....

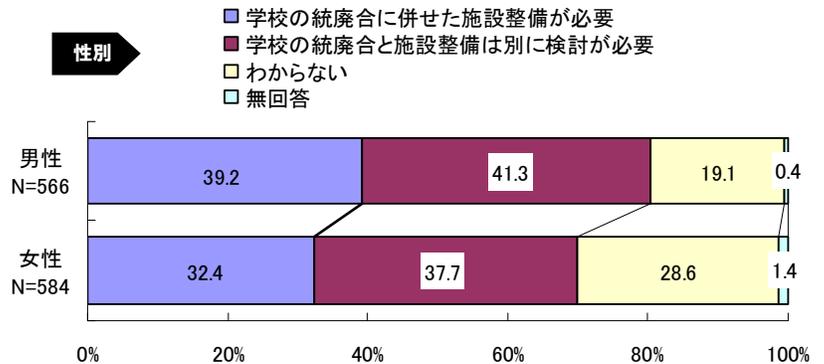
問16 小学校の増築や、老朽化した施設の改修などの検討がはじまっています。一方で、児童数の大幅な減少も見られ、学校統廃合を見据えた施設整備が必要となっています。あなたはど  
う思いますか？あてはまるものに1つ○印をつけてください。



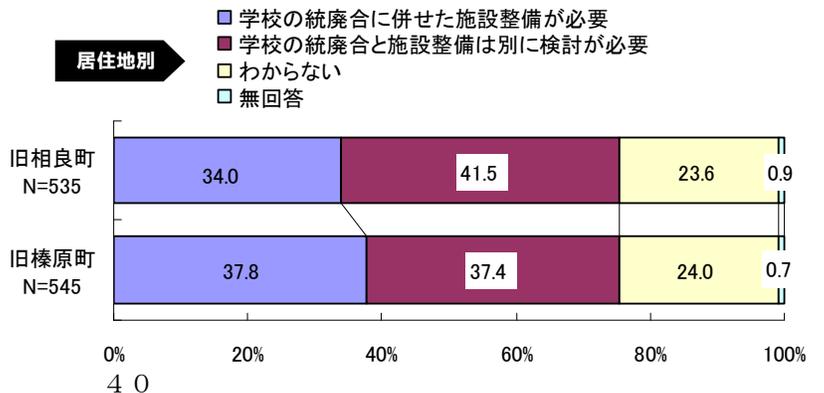
小学校などの改修は、「学校統廃合と施設整備は別に検討が必要」が39.3%で最も多く、次いで「学校統廃合に併せた施設整備が必要」「わからない」の順になっているが、1位と2位に大きな差はなく市民の意見は分裂しているといえる。

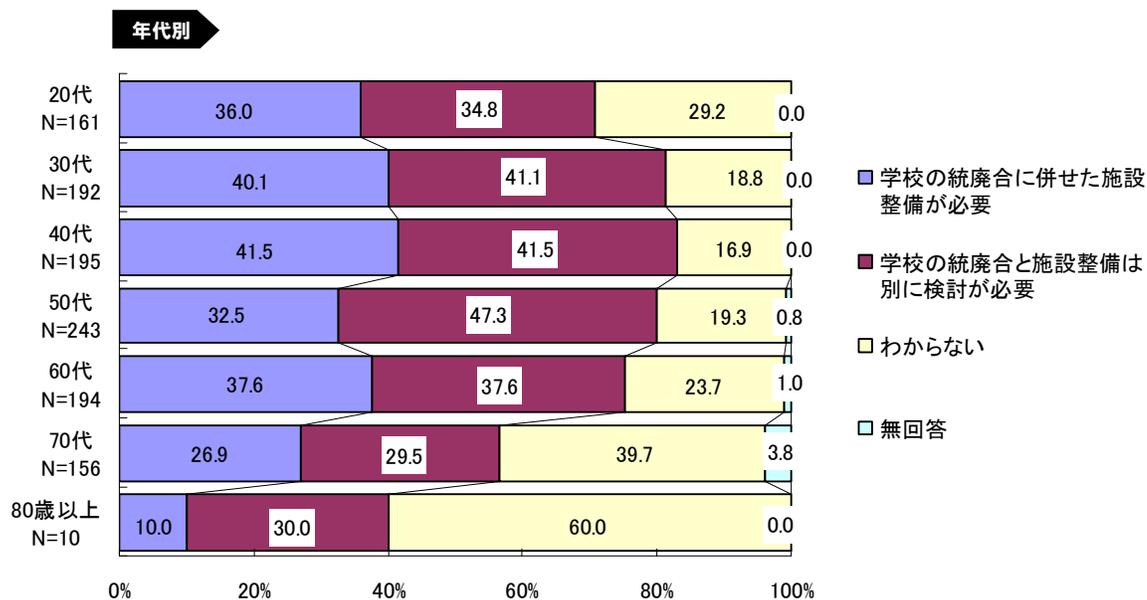
### クロス集計

性別にみると、女性では「わからない」が28.6%と高い割合を占めており、学校統廃合については、男性よりも意見を持ち合わせていない人が多い。



居住地別にみると、旧榛原町では「学校統廃合に併せた施設整備が必要」が「学校統廃合と施設整備は別に検討が必要」とほぼ同率になっている。





年代別にみると、50代では47.3%が「学校の統廃合と施設整備は別に検討が必要」と回答している。

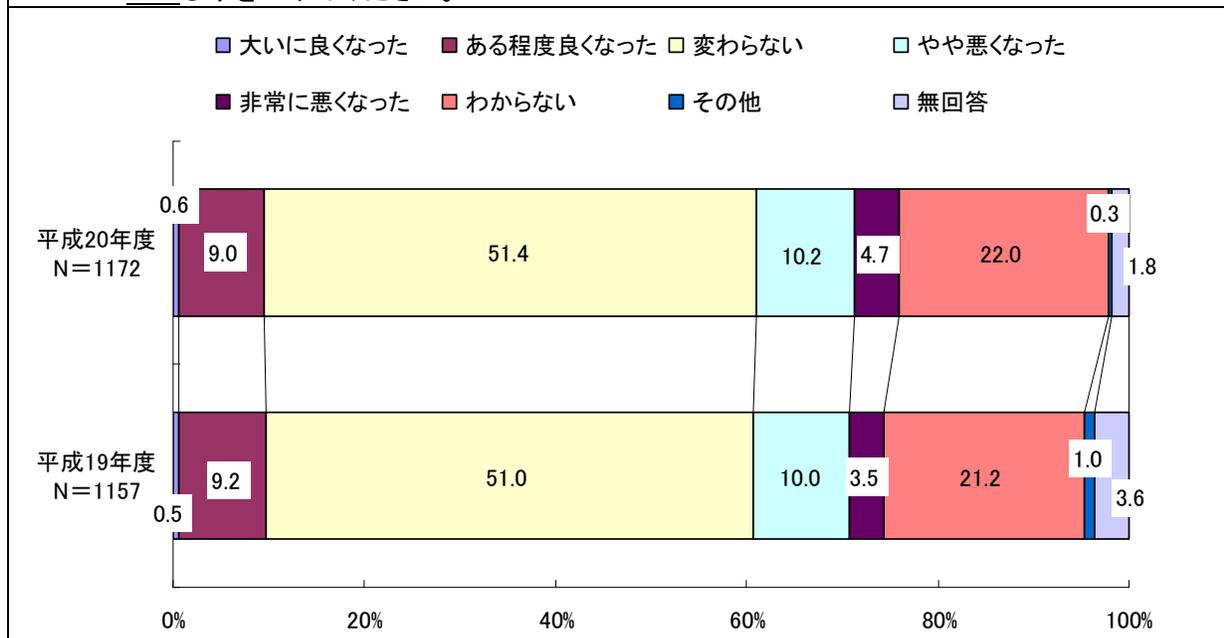
また、20代では「学校の統廃合に併せた施設整備が必要」が「学校の統廃合と施設整備は別に検討が必要」を上回っている。

ポイント

「学校の統廃合と施設整備は別に検討が必要」と考える市民が39.3%  
50代では、その割合は特に高い

<合併してからのまちづくりについてお聞きします>

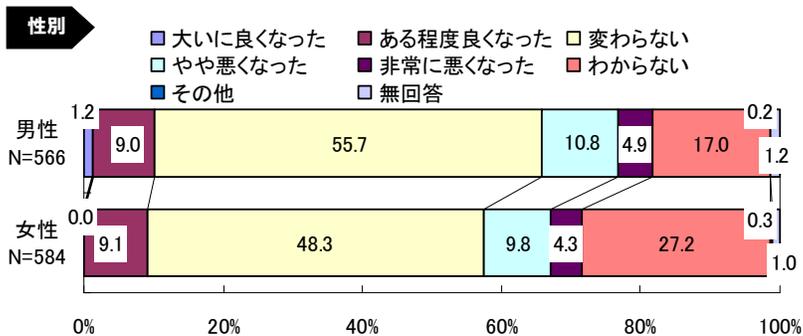
問17 あなたは牧之原市となって市政全般がどのように変化したいと思いますか？あてはまるものに1つ〇印をつけてください。



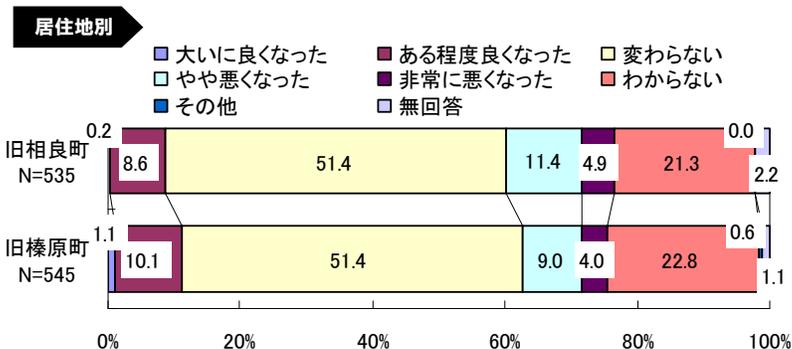
市政全般について、「変わらない」が51.4%で最も多く、「大いによくなった」「ある程度よくなった」の合計が9.6%、「やや悪くなった」「非常に悪くなった」の合計が26.7%となっており、昨年と比率はほぼ変わらない。

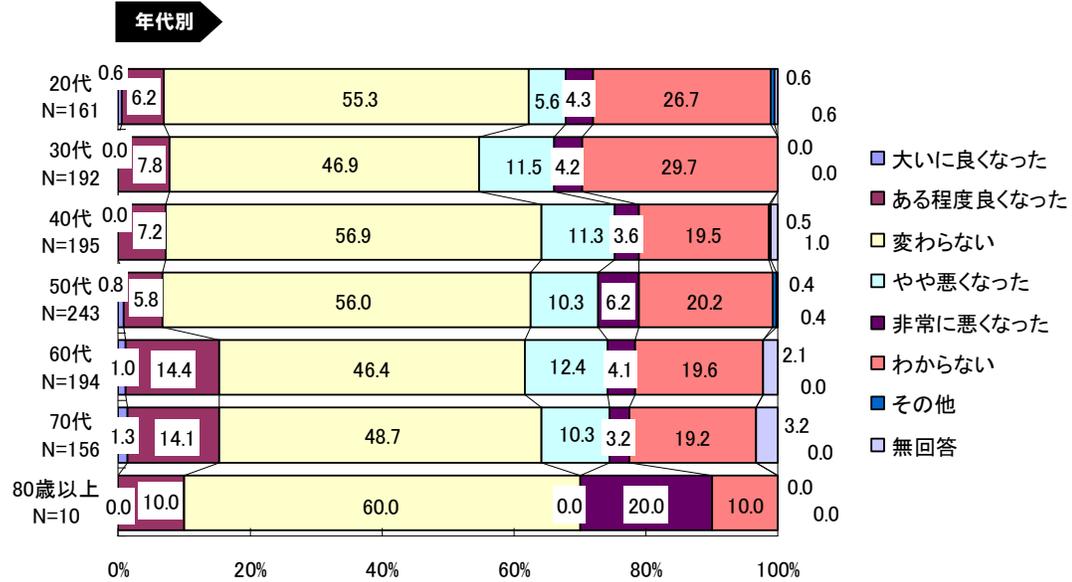
クロス集計

性別にみると、男性は「変わらない」と感じる人が55.7%と過半数を超える。一方、女性は「わからない」が27.2%を占め、市政に関心が薄いといえる。



居住地別にみると、「変わらない」は同率となっているが、「やや悪くなった」は旧相良町の方が、旧榛原町よりも2.4ポイント高くなっている。





年代別にみると、60・70代では「ある程度良くなった」が50代以下に比べて約2倍ポイントが高くなっている。

**問17-1 「良くなったところ」または「悪くなったところ」について、ご自由にお書きください。**

**「良くなったところ」おもな意見**

- ・市職員の対応が良くなったこと
- ・市の情報が外部へ向けて積極的に発信されていること
- ・道路が整備されて交通の便が良くなったこと

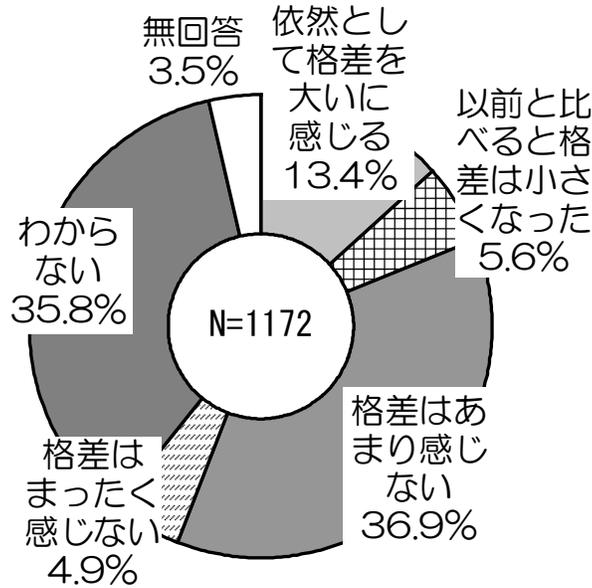
**「悪くなったところ」おもな意見**

- ・市の財政難に伴い、地域行事等に助成金が下りにくくなったこと、サービスが悪くなったこと
- ・市庁舎が2つになって不便になったこと
- ・市民税が高くなったこと

**ポイント**

牧之原市の市政全般は、合併前と「変わらない」と感じる市民は51.4%  
“良くなった”と思う市民はわずかに9.6%

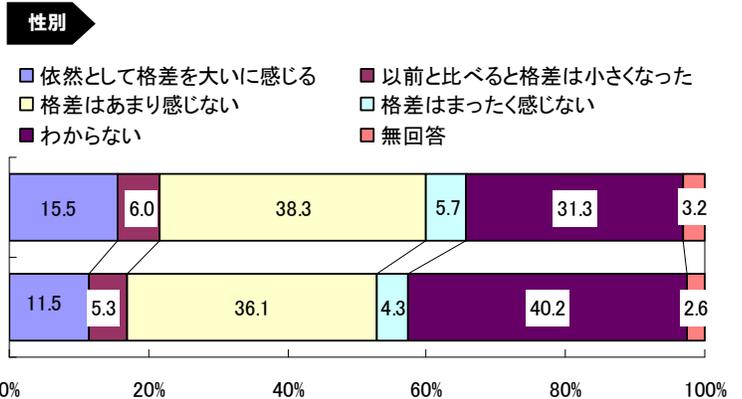
問18 現在、市では旧町間の格差をなくし、市として一体化を図るよう取組んでいるところです。あなたは旧町間の格差を依然として感じますか？あてはまるものに1つ〇印をつけてください。



旧町間での格差について、「格差はあまり感じない」が36.9%で最も多く、次いで「わからない」「依然として格差を大いに感じる」の順となっている。

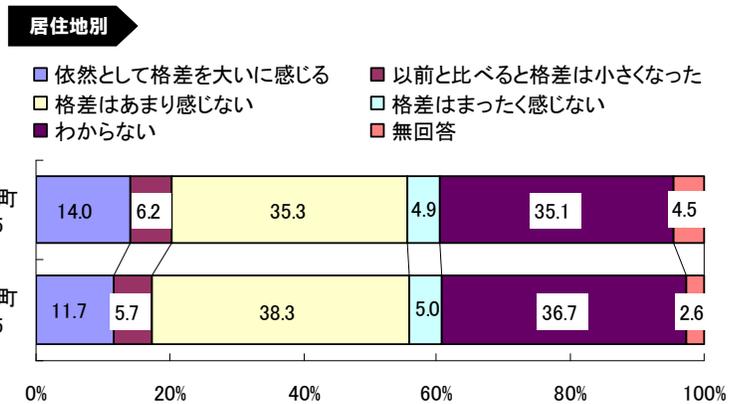
### クロス集計

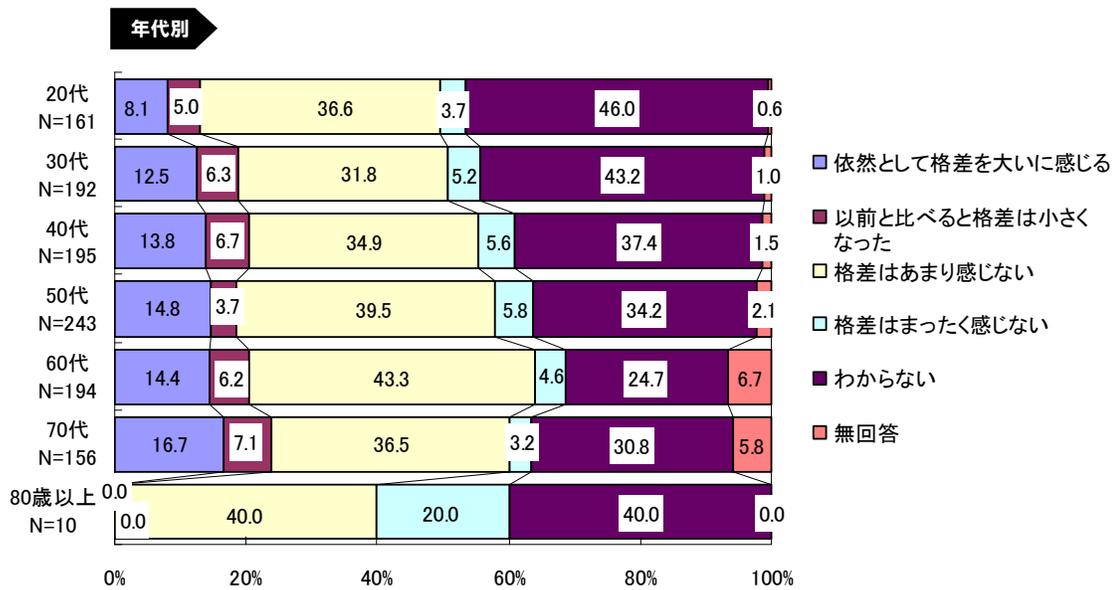
性別にみると、男性は女性に比べて「依然として格差を大いに感じる」が4.0ポイント高くなっている。



居住地別にみると、旧相良町の方が、旧榛原町よりも「依然として格差を大いに感じる」がやや高くなっている。

一方、旧榛原町では「格差はあまり感じない」が旧相良町よりも3ポイント高くなっており、居住地によって格差の感じ方に違いがあらわれている。





年代別にみると、80歳以上を除き、高年代の方が「依然として格差を大いに感じる」が高くなる傾向がある。

問18-1 「格差を感じる場所」について、ご自由にお書きください。

「格差を感じる場所」おもな意見

- ・市の主要行事が旧榛原町で行われること
- ・市民生活に密着した課が相良庁舎に集中していること
- ・旧榛原町は量販店等が多くにぎわいが感じられるが、旧相良町は寂れていること
- ・ゴミの収集方法が旧町間で違うこと

ポイント

合併後、「依然として（旧町間の）格差を大いに感じる」市民は13.4% 旧相良町住民の方が格差を感じている。

<市の取り組みへの提案、意見、感じていること>

**問19** 市の取組みとして実現したら嬉しいと思うことや、市が行っている取組みの改善点について、ご自由にお書きください。

**おもな意見（要望）**

- ・ 休日の市役所窓口業務運営
- ・ 「広報まきのはら」の新聞折込を止めて町内回覧にする
- ・ 市議員・職員の削減
- ・ 市内公共交通機関の充実
- ・ 道路整備
- ・ 市立図書館の開設
- ・ 市を挙げたイベントの開催
- ・ 子育て支援事業、児童手当の増額、子育てしやすい環境づくり
- ・ 環境保護

**問19-1** 問19のほか、暮らしの中で日ごろ喜びや怒りを感じたり、不満に思っていることや、市長や市職員への苦情、または、日ごろの生活の中で感じているなどをご自由にお書きください。

**おもな意見**

- ・ 市長や市政の方向性が市民に伝わっていない
- ・ まちの活性化を望む声
- ・ 小さい子供を遊ばせられるような公園がほしい
- ・ ゴミの分別が細分化されすぎている

<最後に>

回答者の属性

